目 次 ———

Ι	巻頭に際して・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
\mathbb{I}	グローバル教育に関わる沿革・・・・・・・・・・・ 2
\blacksquare	グローバル教育を支えているもの・・・・・・・・・ 4
IV	グローバル教育に関わる取組
	A. 海外帰国生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	報告会・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
	F. ドイツの学校との交流 受入の記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	訪問の記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
V	本校から海外への留学・・・・・・・・・・・・・65
VI	令和3年度グローバル教育に関するアンケート結果・・・・ 68

I. 巻頭に際して

グローバルマインドの育成と探究的な学びについて

神奈川県立鶴嶺高等学校 校長 佐藤 教道

平成最後の年にグローバル教育研究推進校に指定され、この春で満3年が経過します。県の指定事業も3年間をもって一区切りとなります。

振り返ってみると、3年間という年月の大半を新型コロナウイルスとともに過ごしたことになります。その間、 パンデミックは様々に変容しながら全世界を覆い尽くし、本校が特色としてきた海外姉妹校との交流行事や海外 からの留学生の受入れなど、グローバル学習の取組の屋台骨ともいえる行事がことごとく閉ざされたまま現在に 至っています。

新型感染症の影響は、単に海外との交流を不可能としただけでなく、グローバリズムあるいはグローバル思考の勢いそのものを弱体化し、多様な存在を直接体験する機会の喪失が、そのまま多様な存在への意識のあり様に直結していく経験をすることとなりました。世界が委縮し、日本が委縮し、高校生の思考が委縮する…そんな悪循環をいかに断ち切るか―それがグローバル校としての最大の課題ととらえています。

昨年度来、この局面をどのように打開できるのか、ささやかな知恵を絞りながら、学校として取組を続けてまいりました。ドイツ交流校との継続的なオンライン交流に加え、本年度は国際交流委員を中心に「ワールドスポーツフェスティバル」なる行事を企画し、国際交流体験の不足を少しでも補える試みを行います(令和4年3月実施予定)。

巷間で引き合いに出される言い方ですが、グローバル教育は従来型の教科書中心の伝達型学習からアクティビティを軸とする参加体験型の学習へと変容することを前提としています。来年度より実施の新学習指導要領が骨子とする「主体的・協同的・深い学び」は、いうまでもなく、本来のグローバル教育と共鳴する重要な要素となります。コロナにもかかわらず、というよりも、「コロナゆえに」制約下でどのような工夫が可能なのかを模索することは、まさしく探究型の学びを重視する新時代のトレンドに合致する部分であると考えています。

毎年刊行する冊子『グローバル教育の記録』にまとめられた本校の活動をどうぞご覧いただき、今後の 本校の取組へのご示唆をくだされば嬉しい限りです。

Ⅱ. グローバル教育に関わる沿革

1975年(昭和50年)	開校			
1977年(昭和52年)	文部省帰国子女教育研究協力校に指定される			
1984年 (昭和59年)	県海外帰国生徒特別募集校に指定される			
1988年 (昭和63年)	県外国人留学生受入れ推進校に指定される			
1991年 (平成3年)	11月 米メリーランド州マグダナー高校訪問実施 教員2名、生徒3名 姉妹校提携			
1992年 (平成4年)	11月 米メリーランド州マグダナー高校来校(1週間)教員2名、生徒4名			
1993年 (平成5年)	11月 米メリーランド州マグダナー高校訪問実施(11日間)			
1994年 (平成6年)	11月 米メリーランド州マグダナー高校来校 (2週間)			
1998年 (平成10年)	3月 米メリーランド州J.Fケネディー高校訪問実施 教員1名、生徒5名 姉妹校提携			
2000年 (平成12年)	7月 フランス人大学生来校(1日)7名			
	11月 中国の高校の日本語教師2名来校し一日体験			
2001年 (平成13年)	7月 フランス人大学生来校 (1日)			
2002年 (平成14年)	7月 韓国ソウル大学校師範大学附設高等学校来校(教員3名、生徒40名)			
	7月 フランス人大学生来校 8名			
	10月 韓国修学旅行実施(27 期生)			
2003年 (平成15年)	7月 フランス人大学生来校 (1日) 10名			
2004年 (平成16年)	県国際・英語教育活動実践推進拠点校に指定される			
	7月 フランス大学生来校 (1日) 11名			
	7月 英国チャタムグラマースクール来校(3日間)教員2名、生徒19名			
2005年 (平成17年)	7月 フランス大学生来校(1日) 9名			
	10月 英国チャタムグラマースクール来校 (3 日間) 教員3名 生徒27名			
	11月 カナダ・バンクーバー修学旅行実施(30期生)			
2006年(平成18年)	7月 フランス大学生来校 (1日) 7名			
	10月 英国チャタムグラマースクール来校(3日間)教員2名、生徒12名			
	10月 カナダ・バンクーバー修学旅行実施(31 期生)			
	11月 県派遣生徒として韓国、中国、アメリカ(メリーランド州)へそれぞれ1名ずつ生徒派遣			
2007年 (平成19年)	7月 第一回英国交流校(チャタムグラマースクール)訪問実施 教員 2名 生徒 20名			
	県学力向上推進国際・英語教育拠点校に指定される			
	7月 フランス大学生来校(1日) 11名			
	10月 英国交流校(チャタムグラマースクール)来校 (3 日間) 教員 2 名、生徒 10 名			
	10月 カナダ・バンクーバー修学旅行実施(32期生)			
2008年 (平成20年)	7月 県派遣事業として、マレーシアのペナン州へ3名の生徒派遣			
	7月 第二回英国交流校(チャタムグラマースクール)訪問実施 教員2名 生徒16名			
	7月 フランス大学生来校 (1日) 9名			
	10月 マレーシア修学旅行実施 (33 期生)			
	10月 英国交流校(チャタムグラマースクール)来校 (3日間) 教員3名 生徒16名			
	12月 県派遣事業として中国へ1名の生徒派遣			
2009年 (平成 21年)	3月 第三回英国交流校(チャタムグラマースクール)訪問実施 教員2名 生徒16名			
	7月 フランス大学生来校 (1日) 6名			
	10月 英国交流校(チャタムグラマースクール)来校 (3 日間) 教員 2名 生徒 8名			
2010年 (平成22年)	3月 第四回英国交流校(チャタムグラマースクール)訪問実施 教員 2名 生徒 12名			
	県教育力向上推進事業における教育推進校(国際教育)に指定される			
	7月 ドイツ交流校(ギムナジウム・グリンデ)来校(5日間) 教員2名 生徒8名			
	フランス大学生来校(1日) 8名			
	10月 英国交流校(チャタムグラマースクール)来校 教員 2名 生徒 14名			
2011年 (平成 23年)	3月 第五回英国交流校(チャタムグラマースクール)訪問実施 教員 2名 生徒 12名			
	7月 フランス大学生来校 (1日) 4名			
	9月 第一回ドイツ交流校(ギムナジウム・グリンデ)訪問実施 教員2名 生徒20名			
	第一回ニュージーランド交流校(ラザフォードハイスクール)訪問 教員2名 生徒18名			
	12月 AFS 東アジア青少年大交流計画プログラム生受け入れ 教員 1名 生徒 11名			
2012年 (平成24年)	3月 第六回英国交流校(チャタムグラマースクール)訪問実施 教員 2名 生徒 12名			
	7月 フランス大学生来校 (1日) 6名			
	8月 第二回ドイツ交流校(ギムナジウム・グリンデ)訪問実施 教員2名 生徒19名			
	第二回ニュージーランド交流校(ファンガパラオア・カレッジ)訪問実施 教員 2名 生徒 20名			
	10月 英国交流校(チャタムグラマースクール)来校 (1日) 教員 2名 生徒 8名			
2013年 (平成25年)	第七回英国交流校(チャタムグラマースクール)訪問実施 教員 2名 生徒 12名			
	7月 フランス大学生来校(1日) 6名			

8月 第三回ドイツ交流校(ギムナジウム・グリンデ)訪問実施 教員 2名 生徒 12名 第三回ニュージーランド交流校(ファンガパラオア・カレッジ)訪問 教員2名 生徒24名 10月 英国交流校(チャタムグラマースクール)来校(1日) 教員3名 生徒25名 3月 第八回英国交流校(チャタムグラマースクール)訪問実施 教員 2名 生徒 12名 2014年 (平成26年) 7月 フランス大学生来校(1日) 5名 ドイツ交流校(ギムナジウム・グリンデ)来校(5日間) 教員2名 生徒8名 8月 第四回ニュージーランド交流校(オネハンガ・ハイスクール)訪問実施 教員2名 生徒 20 名 9月 第四回ドイツ交流校(ギムナジウム・グリンデ)訪問実施 教員 2名 生徒 12名 10月 英国交流校(チャタムグラマースクール)来校(1日) 教員2名 生徒8名 2015年 (平成27年) 3月 第九回英国交流校(オークアカデミー)訪問実施 教員2名 生徒 20 名 7月 フランス大学生来校(1日) 9名 8月 第五回ニュージーランド交流校(メルヴィル・ハイスクール)訪問実施 教員 2名 生徒 20名 9月 第五回ドイツ交流校(ギムナジウム・グリンデ)訪問 教員 2名 生徒 12名 11月 オーストラリア大学生来校 (1日) 8名 2016年 (平成28年) 3月 第十回英国交流校(ウィンチカムスクール)訪問実施 教員2名 生徒20名 7月 フランス大学生来(1日) 10名 8月 第六回ドイツ交流校(ギムナジウム・グリンデ)訪問実施 教員 2名 生徒 12名 11月 オーストラリア大学生来校 (1日) 8名 3月 第十一回英国交流校(ウィンチカム・スクール)訪問実施 2017年 (平成29年) 教員2名 生徒 20 名 7月 フランス大学生来校(1日) 8名 8月 第七回ドイツ交流校(ザルツマン・シューレ)訪問実施 教員2名 生徒12名 9月 英国交流校(ウィンチカム・スクール)来校 (5日) 教員3名 生徒19名 11月 オーストラリア大学生来校 (1日) 8名 2018年 (平成30年) 3月 第十二回英国交流校(ウィンチカム・スクール)訪問実施 教員2名 7月 フランス大学生来校 (1日) 7名 8月 第六回ニュージーランド交流校 (アルフリストン・カレッジ) 訪問実施 教員2名 生徒20名 9月 ドイツ交流校(ザルツマン・シューレ)来校 (5日) 教員 2名 生徒 11名 2019年 (令和元年) 3月 第十三回英国交流校(ウィンチカム・スクール)訪問実施 教員2名 生徒20名 7月 フランス大学生来校 (1日) 3名 8月 第八回ドイツ交流校(ザルツマン・シューレ)訪問実施 教員 2名 生徒 12名 9月 ドイツ交流校(ザルツマン・シューレ)来校 (8日) 教員 2名 生徒 12名 2020年(令和2年) 3月 英国交流校訪問 中止 7月 フランス大学生来校 中止 8月 ドイツ交流校訪問 中止 9月 ドイツ交流校(ザルツマン・シューレ)オンライン交流 12月 海外勤務の卒業生によるオンライン授業 12月 Tsurumine Speech Contest 2021年(令和3年) 3月 英国交流校訪問 中止 7月 フランス大学生来校 中止 8月 ニュージーランド交流校訪問 中止 12月 海外勤務の卒業生によるオンライン授業 12月 Tsurumine Speech Contest 3月 ワールドスポーツフェスティバル (予定)

Ⅲ. グローバル教育を支えているもの

■ 国際交流委員会

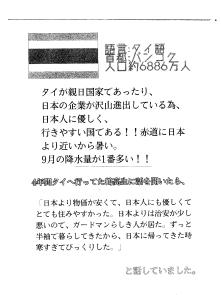
生徒会の一委員会として、毎年各クラスから代表を選出し、 国際交流事業の補助に当たる。委員は毎年訪れる短期・ 長期の留学生のサポート、送別会などの企画運営を行い、 また、外国からの訪問団に対する全校による歓迎会の実施 運営の中心となる。文化祭では、年間の交流事業の紹介を 展示した。



- ■鶴嶺祭での国際交流委員会による発表(※2021 年度はコロナ感染拡大防止のため中止) 2020 年 9 月 5 日(土)に実施された鶴嶺祭で、国際交流委員が夏季休業中に行った調べ学習の展示を行った。
- ●発表テーマ:『国内での国際交流』
- ●1 年生: 各クラスで1枚ポスターを作成する。 2 年生: 2 クラス合同で動画を作成する。
- ●内容

①海外で暮らしていた人、海外に留学に行ったことがある人、海外出身の人にインタビュー ②インタビューした人が行っていた国の情報(国名、国旗、地理情報、有名な場所、日本との関わり など)

1年生は、ポスターを作成して展示をした。帰国生にインタビューしたり、自分の周りにいる大人に話を聞いてパソコンや写真等を使用してポスターを作成した。





1年8組

生徒のコメント (抜粋)

・バスの運転手さんの気分でバスが止まるのは日本ではないことだと思いました。オーストラリアの自然がすごくきれいなので見てみたいです。(オーストラリアについて調べた生徒より)

2年生は、鶴嶺高校の先生やALTの方々にインタビューを行い、その動画を作成した。内容としては、先生方が行ったことのある地域についてインタビューをしたり、ALTの先生には「アフリカの中で有名な場所はどこですか」「日本の高校生はアフリカに行った方がいいと思いますか」と英語で伺い、答えていただいた。









コロナ禍により、実際に海外へ足を運べない分、身近にいる人に海外の様子を聞くことで、いつか海外に行かれるようになった際のイメージを膨らませるきっかけとなった。また、英語学習の大切さを改めて実感し、意欲向上に繋がったという生徒もいた。

※文化祭での展示の様子



第1回ワールドスポーツフェスティバル開催決定

国際交流委員を中心に 2022 年 3 月 14 日、15 日でワールドスポーツフェスティバルの 開催が決定した。諸外国で行われているスポーツを体験することで異文化に対する 興味・関心を高めるの目的である。現在ルール説明用の動画を作成している。 種目はモルック(スウェーデン)、アルティメット(アメリカ)、キンボール(カナダ)、ボッチャ(イタリア)、百人一首(日本)等を予定している。

■ 外国語指導助手との交流

現在 ALT が 2名、合計週 4 日講師として来校し、1 年の「コミュニケーション英語 I」を中心に英語の授業アシスタントとしてオーラル面での指導を行っている。授業以外にも、英語スピーチコンテスト参加生徒の指導、また海外交流校訪問参加生徒に対する事前英語研修における指導等においても支援をお願いしている。このように、本校における国際理解教育の一翼を担っていただいてきた。こういったネイティブのALT はそれぞれの授業や、その他の活動において何よりも生徒と直にふれあうことを通して、異文化理解に関して生徒に大きな刺激を与えていることは間違いない。

昨年度は非常勤講師の Jack Spicer 先生 (アメリカ、ネブラスカ州)、外国語指導助手の Emmanuel Gbevegnon 先生 (ギニア)、Olesya Trush 先生 (ロシア) の 3 名が通年の授業に参加してくれた。本年度は非常勤講師の Jack Spicer 先生 (アメリカ、ネブラスカ州)、外国語指導助手の Jenelyn 先生 2 名が通年の授業に参加してくれた。 先生方は経験も豊富で様々な場面で国際色豊かな授業を展開してくれた。

オレーシャ (Olesya Trush) 先生は School Uniforms の授業において、スライドを用いてロシアと日本の制服 に対する考え方についてわかりやすく説明してくれた。





オレーシャ先生が実際に着用していた制服が紹介されたときに生徒は興味津々にスライドを見入っていました。 現在はロシアの6割程度の学校が制服を定めているとのことです。 エマニュエル (Emmanuel Gbevegnon) 先生は"Gorillas and Humans"の授業において多くの種類の動物たちの足跡を提示し、グループで考えさせるというアクティビティを展開した。エマニュエル先生のアフリカの体験を織り交ぜた貴重な体験談に生徒たちは興味津々であった。





Ⅳ. グローバル教育に関わる取組

A. 海外帰国生

本校は創立2年後の1977年に文部省(現・文部科学省)の帰国子女教育研究指定校に指定され、1984年に県の海外帰国生徒特別募集校に指定されて以来、国際教育に関わる取組を行ってきた。その取組の一つが取り出し授業であり、帰国生に対して特別な教育を行っている。最近は欧米だけではなくアジア諸国など、様々な国からの帰国生も多くなり、その担っているバックグラウンドもざまざまである。彼らもまた、国際理解という面で一般生徒に与える刺激は大きいといえる。発想や自己表現の仕方、そして何よりもその語学力などが、仲間として暮らす中で、一般の生徒に大きな影響を及ぼしている。また、外国からの訪問団への歓迎会では、校長挨拶の通訳をつとめるなどの仕事も引き受けている。





≪帰国生の声≫

45 期生 池田 雄一郎

Due to my father's work, I spent three years studying in a local school in Australia. And had only studied Japanese a little while I was there. Then when I transferred back to Japan in my fifth grade of elementary school. When I first arrived, I couldn't understand much

Japanese and couldn't understand much of my class when I first came back to Japan. I experienced lots of difficulties, but when I entered junior high school I was able to begin to understand Japanese and my classes and had to take the entrance exam and was fortunate to enroll in Tsurumine high school. Even after having been in Japan for some years I still had a problem communicating with others but that all changed after entering this school. With Tsurumine being a global school and joining the soccer club, I was able to fit in easily thanks to the teachers and students and I was also able to learn things that I wouldn't have learned if I had not entered Tsurumine. I was able to think more widely in everything that I did. With all the support, I have received while attending Tsurumine I was able to push myself further and do well in everything that I did. I still have many things that I need to improve and learn on but I was able to reach where I am now thanks to this school. That's why in the future, I would like to take advantage of the things I have experienced and get a job that allows me to interact with foreign countries.

45 期生 加藤 愛菜

帰国してから困った事は正直な話特にありませんでした。

困ったといえばこれに書く内容でしょうか。

これを書くにあたって過去の生徒のものを読ませて貰いましたがこれでいいのでしょうか?と思える程に困ったことは無かったです。

私、日本生まれ日本育ち、タイに三年間住んでいましたが通っていた学校は日本人学校、趣味は小説の 執筆といった感じで帰国後の言語には全く困りませんでした。

タイにいたくせにタイ語の能力は日常会話が少しできる程度で、文字なんて自分の名前くらいしか 書けません。

勉強面は何度も困りましたが、先生は優しく教えてくださったし覚えが悪い私が何度同じ質問をして も怒らず教えてくださったので、本当に困ることは何も無かったんです。

え?そんなことあります?って思ったでしょうか、私も思っています。

だって読んだ過去の生徒の記録はみんな言語に困った勉強に苦労したと言っているんですから、 私でいいのかなんて何度も思いました。

けど、事実帰国生なのです、書く資格くらいはありましょう。

まぁこれを読んでこんな帰国生もいるんだ、くらいに思って欲しいのです。

そして、こんな私でも外の国で生活して学んだことはあります。

文化は言語を超えるコミュニケーションになり得るということです。

私はアニメや漫画がすきでした。

日本の誇るべき文化とも言えるそれはタイでも人気でしたから、日本人で漫画が好きだといえば言語は拙くとも会話は弾みました。

こういった日本の文化は誇るべきものだと思うのです。

私は、卒業後は大学で日本の文化について学び、これからの日本の文化に関われる仕事に就きたい、 と考えています。



45 期生 テッラコーネ 沙夜

日本とイタリアの違い

イタリアの小学校は日本と違い、5年間しかありません。中学校は3年、高校はなんと5年も続きます。

このように様々な面白い違いを今から教えてあげたいと思います。

最初に学校の時間帯について書いていきます。授業は朝の8:00 に始まります。日本はここで45分か50分の授業が始まりますが、イタリアは1時間丸ごと続きます。休み時間も日本と違い、2時間経ったら15分の休憩となっています。もちろん学校にもよりますが、普通は中学と高校は13:30か14:00に終わります。

小学校は午後まで続くため、学校で給食を食べます。でも、とてもまずいため、私は友達とかと 食べ物をハンカチの中に隠してました!お皿にあるものは全部食べないといけなくて、最後に先 生が1人ずつチェックしに来ていました。

イタリアの学校では制服はありません。毎日私服で、ピアス・入れ墨・髪を染めたりしても大丈夫です。特に高校に入ると、クラスの半分くらいはタバコを喫って、お酒も飲んでいました。

私は高校生活が一番難しくて、大変だと思います。イタリアではテスト期間はなくて、毎日普通のようにテストや、みんなの前でスピーチなどを行います。イタリアの学校では、文化祭や体育祭みたいなものは1つもないため、ぜんぜん楽しくないです。なので私は、日本の学校に通うことができて、とてもラッキーだと思います。

Elementary schools in Italy are different from those in Japan; they last 5 years. The secondary schools 3 years, high schools 5 years. I would like to tell you various interesting differences like this from now on.

At first, I will write about school time. The first lesson starts at 8:00 a.m. In Japan, one lesson lasts for 45 or 50 minutes, but in Italy we study for one hour. Also the break time is different. In Italy, we have it after 2 hours of lesson and it is about 15 minutes. Obviously it differs from school to school, but schools usually finish at 13:30 or 14:00.

Elementary schools continue till afternoon, so we eat lunch at the school canteen. Their food was so bad that, when I was little, I hid my food in my handkerchief. We must eat everything on the plates, so at the end of lunchtime the teacher would check one by one. Another thing is that in Italy we don't have school uniforms. We can wear anything we like, and pierce earrings, tattoos, and dyeing hair are allowed. Especially in high schools, most of the students smoke and also drink alcohol.

I think high school life is the most difficult period for Italian students. We don't have a testweek, but we have such kind every day. We also have to make a speech in front of our classmates.

Not like in Japan, we don't have any school festival, so it's very boring. For this reason, I feel so lucky to have the opportunity to enter a Japanese high school.

45 期生 中坊 倫太郎

私は、この鶴嶺高校がグローバル教育推進校として特別、グローバル教育に力を入れているとは在校していて一度も感じたことがない。たしかに、グローバル教育のようなものはあるし、私も参加したことがある。その中の1つは、ドイツのザルツマンシューレ高校との交流だ。私は、日本の高校の学校行事を英語でプレゼンしたり、英語と日本語を混ぜた文通を行ったりした。そもそも行っていた短期留学の代替案であったので、多少このグローバル教育の質が低下してもしょうがないと思うが、その教育があまりに断続的に行われたため、その場で培うことができた英語力をそのまま成長させていかせることができず、機会を活用することができていなかったと思う。

そこでグローバル教育推進校としての鶴嶺高校に私が提案するのが、普段の授業に英語を使う機会を定 期的に設けることだ。この普段の授業というのは、もちろん英語以外の授業を指す。さきほど述べたザル ツマンシューレ高校との交流を通したグローバル教育の結果から、私は、グローバル教育は、もっと習慣 的、日常的に行わなければあまり意味がないと強く感じた。なぜなら、そこで鍛えることのできた英語力 は、定期的に使わなければ、意味がなくなってしまうからだ。よって、週に1,2回、英語以外の授業 に、英語力を鍛える場を設けることを提案する。では、どのようにそれをするのか。世界史を例にとろ う。現在、私が取っている世界史Bでは、授業形態は、2つに分かれている。それは、知識を得る授業 と、それを応用するワークをする授業だ。前者に英語を取り入れるのは難しいかもしれない。なぜなら、 その知識は、受験の範囲に直結しており、受験生は、その知識のみを欲している上、早くその範囲が終わ って、自分がしたい勉強をしたいと思っているからだ。しかし、後者のワークの授業はどうだろうか。私 は、ここに英語力を鍛えることができる要素を加えることをおすすめする。例えば、その単元に関連する 英語の Youtube をサブタイトルをつけて見せて、そこからワークを日本語で書かせるというのはどうだろ うか。これだと、教員の負担もあまり増やさずに行うことができる上、リスニングという受験科目の勉強 に役立たせることもできるかもしれない。また、この習慣的な英語学習の積み重ねが、生徒の総合的な英 語力を向上する結果、このコロナ禍が終わり、留学が再開されたとき、生徒はさらに深い交流ができるよ うになるだろうと、私は、考える。

よって、私は、習慣的に英語以外の授業に英語力を鍛える機会を設けることを提案する。

よろしくお願いします。

中坊倫太朗

B. 留学生

本校には毎年、1,2名の長期留学生が在籍する。また、12月から翌年2月頃まで毎年受け入れているオーストラリアからの留学生、さらには不定期に様々な団体からの要請で受け入れている留学生が在籍している。こういった留学生が本校生徒に与える影響は大きい。彼らは異文化を担う者として、さらには同年代の仲間として、また、日本語を一生懸命身につけようと努力する者として、様々なインパクトを生徒たちに与えてくれる。とりわけ長期留学生たちの日本語の上達の早さには、教員・生徒ともども驚かされることが多い。そして、その多くが日本独特の体育祭や部活動等を楽しみながら、日本の高校生活を満喫する。残念ながら今年度は世界的パンデミックの影響ですべての留学事業が中止となった。

≪留学生の声≫

ディアン・グロス (フランス) 2018.8~2019.7

去年の八月から日本にいるけど全然十ヶ月な感じしてないです。この経験は本当にすごすぎて、一瞬で終わりました。日本にきてから自分が変わった感覚があります。ただそれは悪いことじゃなくて、いい意味で言います。やはりフランスにいる時と日本にいる時の生活は違うので、私の考え方や喋り方がどんどん変わってしまった。たくさんのいい思い出を作って、留学最高だった。大学生になる時もまた留学したいと思います。日本に住むのは私にとって本当に夢だった。子供のころからテレビやコンピュータで色んなアニメを見て日本の高校生活を経験してみたかった。最初は留学が怖くて長い間家族から離れたくなかった。それでも日本のことを心の底から好きで飛行機に乗った。今は全然後悔しない。逆に時間が少なくてまだ帰りたくない。ホストファミリーと友達から離れたくない。本



体育祭では浴衣を着用 クラスの友人と記念撮影

当にありえない。日本の高校生活はもう慣れたから、絶対帰る時はショックだと思います。去年初めて鶴嶺に来た時一番びっくりしたのは生徒たちの勇気かな。皆真面目に色んな活動やってる。だいたい皆部活やアルバイトやってる。それでも勉強できる。最初私にとってすごく不思議だった。フランスの学校で部活もイベントも全然ないから。日本で最初と最後の文化祭と体育祭を経験しました。皆で準備して、一日授業を忘れるのは楽しかった。生徒たちは本当に一所懸命最高のイベントを作るために頑張りました。それを見て、日本人にすごく憧れました。今年鶴嶺の生徒と先生たちのおかげで最高の十ヶ月でした。本当に感謝しています。ありがとうございます。皆大好き!絶対日本にまた来るよ!

その時またよろしくね♡

ディアン(2年4組, 3年3組)

(原文のままで掲載しています。)

エイダン・ターピン(オーストラリア) 2018.9~2019.1 在籍

県高等学校国際教育研究協議会主催の第48回国際理解発表大会で最優秀県知事賞を受賞しました。

「私の異文化理解」

こんにちは。今年四月にオーストラリアから来ました留学生の エイダン・ターピンです。今日は日本に来てから異文化理解に ついて考えたことをお話します。

私は異文化理解には、二つの考え方があると思います。一つは自分の 文化の考え方で他の文化を見ることです。もう一つは、人が何かをする のを知るだけではなく、深く見て、なぜそうするのかを理解することで す。

私は日本に来たばかりのときは、日本の文化を表面的に見ることが多かったです。日本に来る前にオリエンテーションで、「留学生は必ずカルチャーショックを受けるから心の準備をして置くように」と注意を受けました。もちろん、私は「僕なら、絶対そういうことにはならないなー」と自信がありました。でも、実際に来た時にはずっとオーストラリアの文化の考え方で日本を見続けていました。深く考えず、本当の理解をせずに色々なことを批判していました。



今は、その時の私が間違っていたと分かってきました。相手の行動の理由を理解してみると、日本とオーストラリアの文化は違う状況から生まれただけと分かりました。どこの文化でも、「どっちのほうがいい」ということではなくて、ただ違っているだけです。みんなも、相手を責めたり、怒ったりする前に、その相手の行動の理由を理解してみてほしいと思います。

私がおもしろいと思う異文化誤解の例えは、オーストラリアと日本の、相手のクリスマスのイメージです。日本ではオーストラリアにサンタさんがサーフィンで来ると思われていますが、ほとんどのオーストラリア人にそういうイメージはありません。逆に、私は日本に来る前に、雑誌で「日本ではみんなクリスマスにケンタッキーを食べる!」と読みました。テレビや新聞などでの異文化についての情報だけを真実のものと思うのは単純すぎます。

私たちは他の文化からたくさん学べます。そして、今の世界の「地球温暖化」とか「世界的な飢餓の問題」などを解決するために、世界中で国際理解と協力がとても必要だと思います。

本当の理解は簡単にできることではありません。私も、全然完璧ではありません。でも、頑張り続けています。 だから、どんどん日本が理解できるようになっていて、今は日本が大好きになってきました。

誰でも完璧ではありません。どんなに国際理解ができていても、みんな考え方をまだ進歩できます。

私は、皆さんが時には自分の本来の考え方に疑問を持って、難しくても表面的に考えないでほしいと思います。 一つのことを見ただけで一般化をしないでほしいです。みんなで頑張って、違う視点から見て、本当の異文化理解をもっとできるようになりましょう!

これで終わります。ご清聴ありがとうございました。

C. 様々な団体の受け入れ

■アメリカ・メリーランド州の姉妹校との交流

1991年~2003年

1991年11月に、アメリカ・メリーランド州のマグダナー・ハイスクールと正式に姉妹校提携を結んだ。 生徒3名、職員2名が同校を訪問し、姉妹校調印式、授業等に参加し親善を深めた。2003年3月に教員2 名、生徒10名が本校を訪問したいとの申し出があったが、イラク情勢の緊迫化、SARSの影響によって見送りとなった。

■韓国高校生との交流

2001年~2002年

2001年1月12日、韓国仁川市より来日した6名の高校生が本校を訪れ、2002年7月にはソウル大学校師範大学附設高等学校より教員3名、生徒40名が来校し、本校生徒の家にホームステイした。その年の11月に海外修学旅行として韓国を訪れ、ソウル師範大学附設高等学校を訪問し、相手校生徒が本校生徒を町に案内するなどして交流した。その翌年も韓国修学旅行が計画されたが、SARSの流行により、国内旅行への変更を余儀なくされた。

■AFS 東南アジア・オセアニアから 11 名の高校生との交流

2011年

留学生の交流団体である AFS の依頼を受けて、12月13日(火)と14日(水)の二日間、オーストラリア・ニュージーランドを含む東アジアの高校生11名、引率教員1名を受け入れて交流した。





■オーストラリア大学生との交流

2015~17年

茅ヶ崎市国際交流協会から依頼を受け、毎年 11 月に約 10 名を本校に受け入れている。その際は英語科の授業や LHR 等でディスカッションを行っている。昼休みには 1 学年の教室に一人ずつ配置し、国際交流委員を中心に本校生徒と交流した。



お昼休みに



LHR や英語授業でディスカッション

■フランス大学生との交流

2000年~

オーストラリア大学生と同じく茅ヶ崎市国際交流協会が過去約20年にわたり、毎年7月に日本語を学ぶフランス大学生を10人程度市内にホームステイさせながら、様々な体験交流を行っている。2000年7月14日に7名の電気大学の学生が本校を訪問し、一日高校体験をしたのが本校との交流の始まりである。それ以降、毎年7月にフランス大学生による本校訪問が続いているが、2003年度からは国際交流委員会主催の全校をあげての歓迎会を開催し、相互交流を含めた行事として定着している。2019年度は3名が来校して英語の授業に参加し、生徒との昼食交流会のあと、剣道部の活動に参加した。



授業で生徒にフランス語を教える



剣道部の活動に参加



昼食会で会話を楽しむ



授業に参加し、平安装束『狩衣』を試着(2015年)

D. グローバル教育の実践

■ザルツマンシューレ高校とのオンライン交流

今年度は、ドイツの交流校であるザルツマンシューレ高校とオンラインで交流を行った。オンラインとはいっても、時差がある関係でリアルタイムでの交流が困難であったため、動画やカードの交換をした。オンライン交流は、希望者が16名(1年10名、2年6名)集まり、グループに分かれて動画撮影を行った。

動画作成にあたっては、学校や日本のことを伝える動画を作ることを目的として、本校生徒がドイツの学校に通う生徒たちに伝えたいトピックを考えた。「日本の高校生の恋愛事情」「日本で流行していること」「コンビニ」「日本の学校行事」という4つのテーマを決定し、まずは日本語と英語の原稿を作成した。その後、動画の撮影・編集を行って交流校にDVDを贈った。

「日本の高校生の恋愛事情」(1年)





「コンビニ」(1年)





「日本で流行していること」(2年)



鬼滅の刃 Kimetsu no yaiba



「日本の学校行事」(2年)



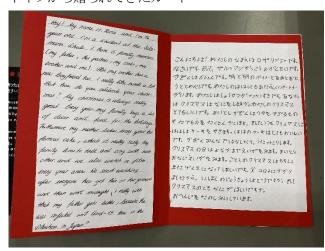


この動画と一緒に、日本ならではの習慣の1つである年賀状を書いて同封した。



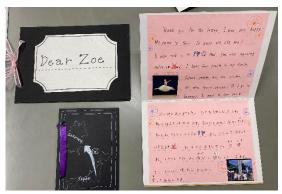
また、交流校からは、日本語を習っているドイツの生徒が書いた日本語と英語のメッセージ付きのクリスマスカードを贈っていただき、生徒たちも非常に喜んで返事を書いていた。

ドイツから贈られてきたカード





本校生徒が贈ったカード





今年度はコロナ禍により、実際に交流校に訪問することはできなかったが、このようにオンラインで交流を行うことでお互いを励ましたり、近況報告をしたりする素晴らしい機会となった。また、参加者の中には昨年度ホームステイを受け入れた生徒も多く、継続的に交流を続けようとする意欲を持つ生徒も多くいることがわかった。このような状況下でも、手段を考えれば交流ができるということに希望をもって、今後も積極的な交流を行っていきたいと思う。

■レシテーションコンテスト参加

東洋英和女学院大学が主催する Recitation Contest 2021 に 2 学年の吉川暖々さんがエントリーした。結果は 3 月下旬に出るが、1 ヶ月間準備をして取り組んだ。今回はレシテーション(暗唱)なので、課題文を読むコンテストであるが、まずは課題文の内容理解をしてから、文章の中で訴えたい部分を考えて、抑揚をつけて読む練習を行った。非常勤講師の Jack Spicer 先生に発音や抑揚のチェックをしていただいたり、自分で音声を録音してチェックをした。

課題パッセージ

In my view there can be no true globalization if it is only economic, if we do not even reach out to halt genocidal situations. While respecting cultural diversity, true globalization means universal respect for human rights, of the positive side of man, of the responsibility to provide protection against evil. That is at the heart of refugee protection. Now, we have to take it one step further and be prepared to halt the worst evil at its source. That is my hope at the threshold of the next millennium. We need determined political leadership. We need citizens like you who are prepared to look beyond the domestic horizon and who can spur reluctant politicians into action.

結果はまだ出ていないが、レシテーションコンテストの準備期間は「相手に伝わるスピーチ」を考えるきっかけとなった。

■ 第54回国際理解発表大会 英語弁論部門

昨年度は1名の生徒が第54回国際理解発表大会 英語弁論部門に参加した。

弁論内容:国際理解、国際交流、国際ボランティア活動に関するもの。演題は自由。高校生としての主張を含み、

未発表原稿であること。

発表時間: 4分30秒以上・5分以内

2年生の内海愛菜さんが参加し、今年度ニュース等で大きく取り上げられた BLACK LIVES MATTER を通して、「差別・偏見」について弁論を行った。コロナ禍により、オンラインでの参加となり、教室で動画撮影を行い、奨励賞を受賞した。



If your loved ones experienced racial discrimination, what would you do?

Tsurumine High School Aina Utsumi

Do you remember this big news? That's the phrase: BLACK LIVES MATTER. When I heard this phrase, I began to ponder this issue. One day a black man was killed by a white police officer. A black high school student who put own hood wanted to buy drink and snacks but he was killed by a white police officer. After an incident the white police officer became innocent. Then one female heard about the news and posted her feelings on Instagram. "Black people. I love you. I love us. Our lives matter, Black lives matter" How it all began. Why did this happen?

Then, I will tell you about my experience here. I went to study in Australia. At the school I was attending at that time, an Australian teacher and international students from China, South Korea, Spain, etc. came and I enjoyed talking about various things. They were curious about Japan and they told me "I want to teach me Japanese!" and talked in not only English but also in Japanese.

When I heard that my roommate was Chinese, I thought "He is the one who speaks straight to the other person." Now I'm wondering that thinking was the prejudice. When I met him and talked to him, he was very humble and kind. He was different from my image. It doesn't mean which character is better. It is natural but I felt that here are people with different personalities in the same country.

He took me to see a sunrise early in the morning, showed me around the university, and taught me about the area a lot. On the other hand, I was sometimes laughed at and was ridiculed as Japanese by a passing car. Why did they think and say like that? I hadn't had much experience of discrimination in Japan, so my head went blank and I didn't know what was happening. And I felt that discrimination was in our daily lives surprisingly.

I think the fundamental problem is people cannot control their emotion and attack other people easily. Of course we're only human so we have each personality and we all grew up in different environments. So it might be difficult to accept the other person. However if you don't know them (him or her) you can't help putting a label like "you have to be like that. You should be like that." It's nothing special. But it is important to spend time with other people regardless of each nationality or countries where they were born. Be polite to someone, listen to other persons and convey our opinion using not violence but words. They are important for us to live together.

I was a little scared to write this sentence. Because, "Someone may be offended by my remarks." "I myself may be discriminating in words." I felt that several times. But is makes sense to tell. It makes sense to think. I learned by writing this. If your loved ones experienced racial discrimination, what would you do? Loved ones are the people who want you in their life. The people who accept yourself and do anything for you smile. The people who love you no matter what. You must not forget that someone's loved ones are suffering on somewhere in the world even now.

和文要旨

今年ニュースで大きく取り上げられることとなった BLACK LIVES MATTER を通して、「差別・偏見」について考えた。自身のオーストラリア留学での経験の中で、自分自身が気付かないうちに持っていた偏見の心や、実際に感じた日本人差別のことを思い返し、なぜ差別が存在するのかということを考えた。根本的な原因は差別を理性で制御できずに容易に他人を攻撃してしまうことではないだろうか。育ってきた環境や性格はもちろん異なるため、相手を受け入れることが難しいこともあるが、相手をよく知らないことで「こうであるはず」というレッテルを張り付けてしまうことはだれしもにあることだと思う。ただ、自分が見えているものがすべてではないということを忘れてはいけない。国籍や人種など関係なく、一人の人間として人と接し、他者の意見に耳を傾け、自分の意見を暴力ではなく言葉で伝えることが重要なのではないか。このスピーチを通して、誰かが嫌な思いをするかもしれないという怖さもあったが、伝えることや言葉にすること、考えることに意味があると考えこのようにペンをとった。もしも今あなたの大切な人が差別に会っていたらどうするか。大切な人とは、互いの人生に存在してほしい人。ありのままのあなたを受け入れてくれ、あなたの笑顔のために何でもする人。何があろうともあなたを愛してくれる人。今もどこかで、誰かの大切な人が苦しんでいるかもしれないということを、いつも私たちは忘れてはいけない。

■ 卒業生帰国生の話を聞き交流する会

2021年9月3日(金)、本校卒業生のクリンギンススミス真莉奈さん(第41期卒業生)と在学生の交流会がオンラインで開催されました。

クリンギンススミス真莉奈さんは高校1年の2学期、保護者の仕事を理由としてアメリカ合衆国ハワイ州より 鶴嶺高校に編入しました。母が日本人であったが、本人はほとんど日本語が分からず大変苦労しました。

在学中は、特に国語の授業が苦手で漢字や助詞の使い方に苦労したことなどは、出席した生徒からも共感を得られました。

帰国生は授業や進路に悩んでいる生徒も多く、真莉奈さんがやさしく聞き出してくれました。逆に明確な進学 希望を持っている生徒には帰国生ならではの学習方法を示してくれました。

感染状況拡大のため、オンラインで開催することになり緊張している生徒が多かったので、次回以降は対面での開催を追及したいと思います。



■大塚製薬&鶴嶺高校コンソーシアム

2020 年 9 月 18 日 (金) 5,6 限で大塚製薬と鶴嶺高校のコンソーシアムの発表会が行われた。大塚製薬からは健康や企業理念について講演をしていただいた。そして生徒側からは「総合的な探究の時間」で準備した「生活・社会」に関する諸問題についての考察をスライドを用いて発表した。そもそもコンソーシアム (Consortium:共同事業体)とは、2 つ以上の個人、企業、団体、政府から成る団体を意味し、共同で何らかの目的に沿った活動を行い、共通の目標に向かって資源を蓄える目的で結成されたものである。

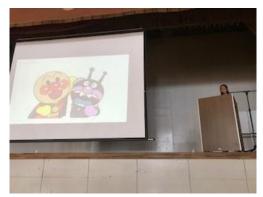
2019年に神奈川県教育委員会を通し大塚製薬との縁が始まった。

○大塚製薬、松浦氏によるプレゼンテーション。



様々な健康関連商品を通して社会に貢献している同社の開発 コンセプト等をわかりやすく説明していただいた。かつて本校校 舎がポカリスエットのCM撮影のロケに使われたとのことである。 (生徒の感想から)

- ・カロリーメイトは看護師さんの意見で作られたということに 感動した。
- ・健康に対する一途な姿勢に感銘を受けた。
- ・固定観念に縛られない発想が大切であることを教えられた。
- ・将来、人の役に立つ仕事がしたいと思った。
- ○生徒による「生活・社会」に関する諸問題に関するプレゼンテーション。 1年10組吉田百花「高校生になった今、知っておくべきアンパンマンに込められた思い」



鶴嶺高校からはクラス代表 10 名がプレゼンテーションを行った。なかでも吉田さんのプレゼンテーションはアンパンマンを通して人間とはどうあるべきであるかという考察を力強く訴え観衆を魅了していた。「コロナに負けるな!」というメッセージで話を終えると万雷の拍手が沸き起こった。

(生徒の感想から) プレゼンテーションにおいて大切だと思うことを書いてください。

- ・冒頭に何を伝えたいかはっきり示すことが大事。・タイトルにはインパクトが必要。
- ・体験談は強い。・質問で始まるプレゼンは興味惹かれる。
- ・イラストや画像を活用したい。・語りかけるように話されるとつい引き込まれる。
- やはり原稿は覚えないとダメ。ジェスチャーは大きめにしたい。
- ・目線を上げる!・実際に自分がやったことはネットに勝るインパクトあり。

■特別公開授業 安河内哲也先生



2021年5月6日、本校体育館にて東進ハイスクール英語科講師の安河内哲也先生の出張講義が行われた。 今回の講演の目的は、新しい学年・クラスになったばかりの今、受験に向かう姿勢を今一度整え、英語の効果 的な学び方を体感し学習意欲を高めていくことであった。具体的には、英語はリスニングを通じて耳から入るこ と、発音と書かれている意味をしっかりと意識して音読をするというアドバイスをいただいた。英語学習をする うえで効果的な音読方法として、「リピーティング」「オーバーラッピング」「シャドーイング」という3つの音 読方法の話もあった。

最後に、「1日1時間、音読をしてほしい。無理ならば1分でもいいからやってほしい。」という言葉があった。今回の安河内先生の話を踏まえて、生徒それぞれが、自身の学習方法を見つめなおし、今後の学習の取組への大きな刺激となった。

■特別公開授業 武藤一也先生「英語を武器に! 英語学習の鉄則」



2020年10月30日(金)に東進衛星予備校の英語科講師である武藤一也先生をお招きし、特別公開授業をしていただいた。「英語学習において必要とされるものは何か」について50分間内容の詰まった講義であった。まず先生は英語力の土台として単語の知識が必須であることを述べられた。そして単語を覚える際には、発音も一緒に覚えることが記憶にいつまでも残るポイントであると強調された。そうした学習方法を継続することで、リスニング力も伸び、きたるべき大学受験や、その先においても様々な場面で通用する英語力の育成につながると力説された。生徒400名をグイグイと惹きつける武藤先生の話術はさすがであった。



生徒たちは金曜の6時間目にもかかわらず、先生の話を傾聴しながらポイントをメモし、ペアワークの際にも 積極的に、そして楽しそうに活動していた。そしてリスニング問題の演習が始まると生徒たちは必死に耳を傾け 内容理解に努めた。今回の特別授業を通して、生徒たちは、英語学習の大きなヒントを得ることができた。

■1年総合的な探究の時間講演会 「SDGs とは何か?」

2021 年 10 月 14 日 (木) 1 年生 388 名を対象に体育館で笹尾実和子さん (所属社団法人の Think the Earth) を講師として講演会「SDGs とは何か」が行われた。司会は中央委員の7組秋山愛華さんと7組寺田紅葉さんが行った。

はじめに講師の笹尾実和子さんと所属社団法人の Think the Earth が司会から紹介された。 Think the Earth はエコロジーとエコノミーの共存をテーマに 2001 年に発足した NPO である。持続可能な社会の実現に貢献するプロジェクトを立案し、企業や行政、NPO、教育機関、クリエイターなど多種多様なセクターと才能をつなぎ、企画を実現することで、新しい価値を創り出してきた。 好奇心こそが行動の原動力であると信じ、頭だけでなく心と身体で触れる数多くのコンテンツ、メディア、イベント、ワークショップ開発等を行っている。

その社団法人の中で笹尾さんは広報担当をしているとのことだった。

講演で笹尾さんは自分とSDGsとのかかわりを述べ、SDGs for schoolを始めたきっかけとSDGsの基礎的な内容を説明された。50年ほど前に初めて宇宙からカラーで撮影された地球の映像が印象的であった。「世界は一つなのになぜ争いがおこったりするのか」、宇宙飛行士が同じような意見を述べていたという。

最近ではインドが気温 50 度になり 3 桁の人が突然死したり、昔なら 1000 年に一度だったことが頻繁に起こるようになってきている。小手先の改善ではだめで地球規模の発想の transform (大変貌) が必要である。

SDG s には 17 のゴールがありどれから始めてもよいが、12 番の「作る責任、使う責任」は取り組みやすいとも言える。例えば服を買うときにきちんとした工程でキチンとした場で作られた服を買う、これだけでも児童労働など見えない人の困難さを救うことになるかもしれない。

SDGsの前身にMDGs(ミレニアム開発目標)が唱えられたがSDGsはこれを発展させる形である。MDGsは途上国の開発問題が中心で「先進国」はそれを援助する、手をさしのべる、という問題の立て方であったのに対し、持続可能な開発目標は世界のすべての国がいまだ達成できておらず、その意味ではすべての国が「(持続可能な開発目標の達成)途上国」である、ととらえている。

17 のゴールに加え、169 のターゲット、232 の指標があり気候変動、富の格差も大きな課題である。ポイントキーワードとして1. 誰も置き去りにしない 2. 経済と社会環境の調和 3. 私たちの世界を変革する がある。若い人が「これから」ではなく「今この時から」主役であり、小学生でさえも行動して成果を挙げている分野がある。身近なところから行動していってほしい。



■2年「国際・平和」をテーマに書いた論文発表会

2学年の総合的な探究の時間では、「国際・平和」をテーマにした論文作成を行っている。テーマに即して、自身のテーマを決定し、1グループ20人の少人数クラスに分かれて7月から11月にかけて論文を作成した。

論文作成の流れ



まずは7月に、テーマを決定して深堀りしていき、夏休みを経て論文を作成しました。その後、担当教員と相談をする中で論文内容を詰めていき、11月にクラス発表をした。そのクラス発表内で決定した代表者10名が、2020年12月18日(金)に本校体育館で学年発表を行った。

	代表者名	テーマ
2年1組	麻生 ももこ	日本と海外の校則
2年2組	鈴木 亜弥	世界の祭り
2年3組	熊田 武留	世界各国のお酒のマナー
2年4組	白井 大河	日本のサブカルチャーと世界の繋がり
2年5組	森山 賢正	SNS
2年6組	永沢 翼	今音楽にできること
2年7組	片山 倖大	世界に安楽死は浸透させていくべきなのか
2年8組	小出 心優	世界の子どもがかかえる問題~私たちにできることは何か~
2年9組	小林 陸	戦争が私達に与えたもの
2年10組	中山 愛央衣	世界共通語を話せるようになるには

論文発表では、それぞれパワーポイントを用意し、5分間のプレゼンテーションを行った。代表者以外の生徒 も取り組んだテーマの論文だったので、集中して発表を聞くことができていた。

また、3月16日実施の令和2年度探究的学習発表会には、代表者の中から2名が参加予定である。3学年になったら、「国際社会における問題点・課題について、解決策を考える」というテーマに沿った卒業論文を書く予定である。今回の経験を活かし、論理的に文章を展開し、人に伝わるプレゼンテーションができることを期待している。

プレゼンしている様子







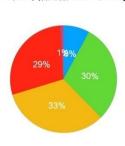




パワーポイントの内容

【日本人でどれぐらいの人が英語を話せているのか】





世界各国では<mark>様々なマナ</mark>ーがあります。 お酒だけでなく <u>「郷に入っては郷に従え」</u> というようにその国のマナーを守り 平和的に色々な国の人と関われるようにしましょう。



結論:安楽死は世界に浸透させていくべき

⇒生きる権利は認められるのに死ぬ権利が認められないというの はおかしい!

【先程の問題点】

- ①, ② 解決可能なのでは?
- ③ 解決は不可能に近い

③の問題が世界に安楽死が浸透しない要因

【なぜ英語を話せない人がいるのか】



3.英語をイメージで捉える感覚がないか 4.英語の質問が聞き取れないから





今後日本が更に世界と繋がっていくために...

- サブカルチャーへの関心を高める。それに対する偏見を無くしていく。

〈私たちにできること〉

- まずは国内での理解を深める
- 世界ヘアピールをする (コミケ、ジャポンエキスポ)
- ○世界と繋がっていくための

キーポイントに!

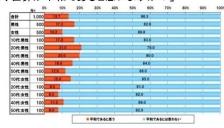


「あなたが思う『平和』とは何ですか?」





「今、世界が平和であると思いますか?」





■Tsurumine High School Speech Contest 2021

2021 年 12 月 23 日(木)に Tsurumine High School Speech Contest 2021 が行われた。「コミュニケーション英語 II」の授業で全生徒が予選に参加した中から選ばれたファイナリスト 20 名が素晴らしいスピーチを披露した。テーマは"The Person I Respect the Most"である。

"The person I respect the most" Speech Finalists

Class	Name	Title
2-1	Yuta Nakamura	The Greatest Chef
2-1	Reia Yamagishi	KEMIO
2-2	Chiho Umeda	Macchan
2-2	Ryu Watanabe	My BFF
2-3	Miyu Kawasaki	My Father
2-3	Miyu Horiguchi	Xu Fengfan (シュウ フェンファン)
2-4	Yousuke Kuraishi	Sasara
2-4	Hayato Sasara	Tenshin Nasukawa
2-5	Shusuke Hirabayashi	My younger brother
2-5	Takumi Fukuoka	Mk Leo
2-6	Taiga Otsuka	Daigo Sakatsume
2-6	Mio Takeuchi	My sister
2-7	Haruna Kubota	Ozaki Sekaikan
2-7	Lisa Sugai	Kusano Masamune
2-8	Hiyori Tsuruoka	Boyan Slat
2-8	Reiri Yamasaki	The Wonderful Teacher I met for the First Time
2-9	Atsushi Kojima	ZUN
2-9	Tsuyoshi Takada	Ohtani Shohei
2-10	Seita Fukuzaki	Shigesato Itoi
2-10	Momoka Yoshida	Ken Shimura

審査員の佐藤校長、ジェニー先生、山岸先生の3名による厳正な審査の結果、

1位は Momoka Yoshida の Ken Shimura、2位は同点で Haruna Kubota の Ozaki Sekaikan、そして Seita Fukuzaki の Shigesato Itoi である。

ファイナリストの20名



賞状の授与





E. イギリスの学校との交流

【受入の記録】

2004年より2013年まで10年間、チャタム・グラマースクール・フォー・ボーイズ (Chatham Grammar School for Boys: CGSB) との交流が続いた。CGSBはロンドンの東南部ケント州のメドウェイ川東岸の町 Chatham にあり、チャールズ・ディケンズが出たことでも知られる、由緒ある公立校である。11歳から18歳までの生徒を擁し、11歳から16歳までは男子のみだが、16歳から18歳までは若干の女子を交えての共学である。2004年7月に初めてチャタムの生徒たちが来校した。また、本校からも、2007年~2014年の8回にわたり英国訪問が実施され、相互訪問の形となった。その後、先方の日本人担当者が帰国したため交流が涂絶えた。

2015年はCGSBに代わり、ロンドン南西部ボーンマスのオークアカデミーを訪問した。

2016年にコッツウォルズ地方のウィンチカム・スクールを訪問したところ大変な歓迎を受け、相互交流が始まり、今年度末も含めて5回の訪問と1回の受入が実現した。

第1回イギリス受入 チャタム・グラマースクール 2004年7月12日~14日

来校生徒: 男子15名 女子4名

引率教員: 2名

日程:12日 午後3時来校。ホームステイ先の家族と対面、歓迎式

13日 1校時はホストのクラスの授業参加

2 校時 AV 教室に学校紹介ビデオを見せながらオリエンテーション 3,4 校時 体育館にて、全校生徒による歓迎会(国際交流委員会主催)

5,6 校時 ホスト生徒の授業参加

14日 1~4校時に英語の授業を配置し、そこでそれぞれがプレゼンテーションを実施

昼過ぎに中庭でお別れ会ののち見送り

第2回イギリス英国受入 チャタム・グラマースクール 2005年10月25日~27日

来校生徒: 男子22名 女子5名 (うち3名が2年続けての来校)

引率教員: 4名

日程:25日 午後3時来校 ホームステイ先の家族と対面、歓迎式

26日 1校時 ホストの授業参加

2 校時 AV 教室でオリエンテーション

3校時 ホストの授業に参加 *ここまで45分短縮授業

4 校時 体育館にて全校歓迎会(国際交流委員会主催)

5,6 校時 ホストの授業、書道等参加

授業でプレゼンテーションを実施

放課後、部活参加

27 日 1~3 校時 ホストの授業参加・英語の授業に

おけるプレゼンテーションを実施

4校時 アンケート記入、

昼食後中庭でお別れ会、見送り



【事前学習の発表】

イギリスの伝統的な料理 43 期生 篠原美音

① イングリッシュブレックファスト

イギリスの週末などのゆっくりした朝ごはんの定番です。主なイングリッシュブレックファストは、 ソーセージ、ベーコン、目玉焼き、マッシュルーム、トマト、ビーンズ、そして食パンです。ソーセージ は「ブラッドプディング」という豚肉と豚の血が入った日本とは異なったものであり、好みが分かれる そう。嫌いな人は、ハッシュドポテトを食べる家庭が多いそうです。

② フィッシュアンドチップス

これはイギリスの代表的なファーストフードであり、フィッシュは主にタラなどの白身魚を使っており、衣は小麦粉を卵、水、またはビールで溶いて揚げたものです。チップスは日本でいうフライドポテトのことで、ソルトとビネガーをかけて食べるのがイギリス流。とてもおいしく、レストランなどでは安く食べることができ、イギリス人にも大人気の食べ物です。

③ ハギス

スコットランドはイングランドとは違った食文化を持ち、中でもハギスはスコットランドで有名な食べ物です。ハギスは羊の内臓、玉ねぎ、ハーブなどを羊の胃袋に詰めて、煮る又は茹でて食べます。

④ ブリティッシュパイ

これはパイ生地の中にエール(ビールで煮たビーフシチュー)や豚ひき肉が入ったもので、古くから イギリスの家庭で親しまれている料理です。またパイというとお菓子やデザートをイメージしてしまい ますが、イギリスのパイはランチやディナーでメンイとして食べます。

⑤ アフタヌーンティー

イギリス人は一回の食事の量が少ない分を間食で補います。そのため、午後の3時~午後の6時にかけて間食を楽しむ習慣をアフタヌーンティーといいます。銀の3段のスタンドで出され、下からサンドイッチ、ペイストリー、(焼き菓子や生菓子)、スコーンの順で盛り付けられます。

- ・またイギリス人は紅茶が大好きで、1日に $4\sim5$ 杯ほどを飲むそうです。また、アフタヌーンティー のときには必ず紅茶も一緒に楽しむそうです。
- ・上記以外にも、日本にも馴染みのあるローストや、ビーフシチューはイギリスが発祥だそうです。

【訪問の記録】

第12回イギリス訪問 ウィンチカム・スクール 2019年3月22日~30日

22日(金曜日) 羽田空港~ヒースロー空港~ホテル

午前11:30羽田空港を出発し、12時間後の現地時間15:30にロンドン・ヒースロー空港に到着した。約1時間 半並んだ入国審査の後、専用バスで空港近くの宿泊ホテルに向かう。



ヒースロー空港に到着

23日(土曜日) ロンドン市内観光 と入校式

午前中はロンドン市内観光、午後は大英博物館を見学し、ウィンチカムへ移動。入校式後、各自ホストファミリーの自宅へ移動する。



ロンドン市内にて



大英博物館にて

24日(日曜日) 終日ホストファミリーと過ごす。

25日(月曜日) ウィンチカムスクール訪問1日目

午前中2時間は、2グループに分かれて英語の特別授業を受ける。3・4時間目は、スクールバディと一緒にウィンチカムスクールの授業(スペイン語、地理、数学、調理実習など)に参加した。昼食後、英語の二人の先生も同行してウィンチカムを散策し、その後ウィンチカム生とディスカッションを行う。



入校の様子



授業の様子



ウィンチカム散策







26日 (火曜日) ウィンチカムスクール訪問2日目

午前中2時間は、2グループに分かれて英語の特別授業を受ける。3校時目は、スクールバディによる校内見学を行い、4時間目はウィンチカムスクールの生徒と一緒に体育(サッカー、ネットボール)の授業に参加する。 午後は、英語の先生と一緒に、専用バスでストラットフォードに向かい観光する。



バスハイク前



ストラットフォードのシェークスピアの生家の前

27日(水曜日)ウィンチカムスクール訪問3日目

午前中2時間は、2グループに分かれて英語の特別授業を受け、3・4時間目は本校生徒がウィンチカム生に 日本文化を紹介する。昼食後、コッツウォルズの村(バイブリー・バートン)を観光する。









日本文化紹介

28日 (木曜日) ウィンチカムスクール訪問4日目

午前中2時間は最後の英語の特別授業に参加し、3・4時間目はウィンチカムスクールの授業に参加する。 午後は閉講式を行い、担当の先生から、一人ひとりに修了証が渡される。午後4時~6時にさよならパーティ を催す。









閉講式・さよならパーティの様子

29日(金曜日)30日(土曜日)

8時にホストファミリーと別れて、午前中はオックスフォード、午後はウィンザー城を観光する。その後空港に向かい、19時の飛行機で出国する。



オックスフォードにて



ウィンザー城にて

【現地校での日本文化のプレゼンテーション】

訪問先の交流校では、行先に関わらず、日本文化を英語で紹介している。事前学習でパワーポイントも含め、 用意周到に準備している。以下、生徒の発表を掲載する。

タイトル: Ninja & Karate

発表者:44 期生 津山空斗 今井宏太郎 天城史穏 青木優汰 澁谷颯人

忍者ninja Japanese soldier



A ninja is a kind of spy

A "Shinobi" is another name for a ninja

A female ninja is called a "kunoichi"



Ninjas majorly existed from the Kamakura era to the Edo era

They have a lot of weapons



Kusarigama 鎖 鎌



Shuriken





手裏剣

タイトル:神奈川県 発表者:40期生 森あおい

Hello everyone. I'll introduce Kanagawa which is where I'm from.

First, Kanagawa is one of Japan's prefectures. Then, where is Kanagawa? It is located in the center of the mainland of Japan. It consists of 13 towns, 19 cities, and 1 village.

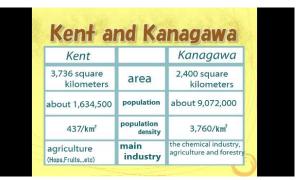
Kanagawa is next to Tokyo, which is the capital of Japan. It is also next to Shizuoka, which has the highest mountain in Japan, Mt. Fuji. So, you can see Mt. Fuji from various places in Kanagawa.

Well, Let me compare Kent with Kanagawa. This chart shows Kent compared with Kanagawa. Kanagawa is about 2400 square kilometers in area. It is not very large. But the population is about 9072000. This is the second largest in Japan, the first being Tokyo. So, it is densely populated. As shown on the chart, Kanagawa is smaller than Kent but Kanagawa's population is five times as large as that of Kent. So the difference in population density between Kent and Kanagawa is big.

Prefectural capital is Yokohama. There is a harbor bay called Yokohama Port. It is famous for the arrival of the U.S. black ships, led by commander Perry, about 150 years ago.









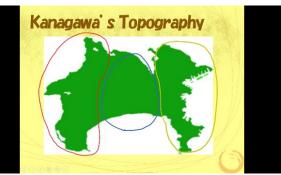
Next, I'll introduce the topography of Kanagawa. Kanagawa is divided into three parts. Eastern region of hills, central region of flat terraces and lowlands, and a western region of mountainous and volcanic lands.

There is a large volcano called Hakone Volcano in the western region. The volcanic activity began about 650,000 years ago. We can still see the volcanic activity today. The hot springs in the surrounding area have lead to the increase of many hot spring resorts. These places used to be popular for medical purpose in the old days. Nowadays many tourists visit them and enjoy the hot springs.

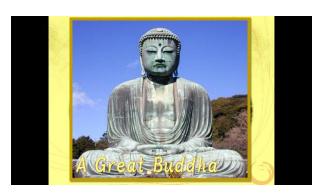
Next, I'll introduce Kamakura. Kamakura is also famous tourist destination in Kanagawa. These are 41 shrines and 119 temples in Kamakura. In Koutokuin Temple, there is a Great Buddha, which is 11.35m in height and the weight is 124 tons.

Also many people visit Kamakura to see hydrangeas in June and Autumn leaves in Autumn.

Next is about the climate. Kanagawa is warm and has a lot of rainfall. Temperature is low in high lands and high in low lands. It is chilly in spring. Summer is hot and humid. We have a cloudy and rainy period called the "rainy season" between May and July every year. Kanagawa is the region that is well under the influence of rainy season. It is also hot in autumn because Kanagawa's lingering summer heat is severe. But as winter draws near, it becomes cold. Winter is dry and cold. But we don't have much snow.









【訪問記】

43 期生 伊東優衣

Homestay that had a wonderful encounter

For me, the days I spent in the UK were real substantial and also very fun! At first, even though we arrived at Heathrow Airport after getting off the plane, I was confused because it didn't feel like we came to the UK all the way. I was able to feel it at last, sucking in the UK air after passing departure examination. At this time, I was so excited with many expectations on training trips. I've studied English hard because I'd like to communicate with foreigners in English. That is why my English is still developing. I want to use this opportunity for the improving of y English skill by gaining experiences. I took part in this trip with such ideas.

The best thing I had been looking forward to in this trip was home stay. The sightseeing by bus ended, on the way to Cheltenham where we're going to stay, anxiety began to fill my head. For example, "Can I communicate with my host family for sure?" "Can I enjoy my home stay with them?", and so on. But upon actually meeting them, surprisingly, I found myself standing with confidence. What I was worried about a few minutes ago seemed to disappear. Thinking of that now, I think feelings of excitement were stronger than anxiety in my home stay at that time. At the host family meeting, I met my host mother, Sam, who picked me up. In the car, I could talk to her a lot positively without feeling tension because she was very kind with a cute smile. Talking about my hobbies with each other, I enjoyed communicating with my host mother from the first day. So, I was very happy. When she commended me about my English, like "Your English is very good!", unexpectedly, I was excited to hear that! My host father, Mike also welcomed me kindly when we arrived at their house. Knowing that I love dogs, he talked about their favorite dogs, Molly and Dell a lot. I love his behavior to raise his eyebrows sometimes when he talks to me looking at my face.

Sam always cooked lunch and dinner for me. She is very good at cooking, so there was never day I didn't eat all of the food. After dinner, I often washed the dishes with Mike. Even in this case, our conversation was never interrupted. We talked about the event of the day, and laughed about a joke Sam was telling us. Also, they told me about their life in the UK. It was very fun! We relaxed in the living room together after finishing cleaning up the dishes. Sometimes, we spent the time to watch TV but most of the time was spent on conversation with each other. I was very happy because Sam and Mike always talked smiling at me about a lot of things and lent their ears to my poor English. I wanted to tell them more about Japan, but, as I had expected, I was dissatisfied with advanced preparation.

I should have prepared a huge amount. Thinking about that, I sometimes regret it but Sam and Mike told me about the nature and food of the UK and their family to delight me. So, I thoroughly enjoyed home stay by as many things as possible before leaving the UK. The thing I learned is this is the importance of knowing about my own country before learning about foreign cultures. To my surprise, Sam and Mike are familiar with their own country's culture. This is not because I'm a foreigner in England or because they're an elderly couple who have already raised three children in England. In other words, they're really

interested in the culture of their home country. I understood the importance of looking at their faces when they talked to me. Also, Mike goes to China sometimes for his job, so he told me a lot of the impressive things of China, for example, delicious food, buildings, and so on. It's not enough to about only one foreign culture, as a first step, I think that we need to be able to explain about the culture of our own country. By doing so, it became possible to learn other cultures more deeply. Thanks to Sam and Mike, I could notice something very important. I'm sincerely grateful to them. But I believe the most important thing is the attitude to try to communicate. Because both Sam and Mike were really kind to me, I could always feel positive and smile during my home stay. From now on, I'll love my home town more, and also love the surrounding people a lot, like them taking care of me very kindly. Then, I'd like to become stronger by mastering English now. Moreover, I hope to visit them again sometime once I become stronger.

【報告会】

交流校訪問に参加した生徒が、一般生徒に向けて2学年の「総合的な学習の時間」に、訪問した国の学校生活・ 家庭生活・見学の体験、または現地校で発表した「日本文化のプレゼンテーション」を披露している。以下は、 生徒の発表したスライドの一部である。







ホストファミリーとの食事

学校生活 (お昼)

名前を書いてプレゼント

F. ドイツの学校との交流

【受入の記録】

2010年に受け入れを行ったギムナジウム・グリンデ(Gymnasium Glinde)との交流は回を重ね、2011年 ~2016年の6回にわたり、本校からドイツ訪問が実施され、相互訪問の形となった。

7回目の2017年はギムナジウム・グリンデに代わり、ドイツ中東部のチューリンゲン州にあるザルツマン・シューレ(Salzmann Schule)を初めて訪問し、グリンデから1名、ザルツマン・シューレから1名の訪問を受け入れた。2018年度には11名、2019年度には13名をザルツマン・シューレから受け入れた。

第1回ドイツ交流校の受入れ ギムナジウム・グリンデ 2010年7月9日~14日

来校生徒: 男子2名 女子6名

引率教員:2名

日程:7月9日(金) 体育館での野球部壮行会に参加し全校生徒に紹介し、午後は鎌倉訪問

10日(土) ホスト学生と共に都内観光

11日(日) 各家庭でホストファミリーと過ごす

12日(月) 授業に参加・ドイツ人生徒の英語によるドイツ文化プレゼンテーション

13日(火) 同上・放課後に視聴覚室にてさよならパーティー





授業に参加してドイツ文化のプレゼンテーション



鎌倉へ半日遠足



東京へ一日遠足



体育館で歓迎会



お別れ会

第5回ドイツ交流校の受入れ ザルツマン・シューレ 2019年9月17日~24日

ザルツマン・シューレ(Salzmannschule)はドイツの中東部にある学校である。3年間をかけて連絡・調整を行い、2017年から交流校としての絆が始まった。この年は生徒 12名の訪問を受入れ、また 9 月 19 日から 10 月 10 日の 1 カ月間、同校より女子生徒 1 名も受入れた。

来校生徒: 男子3名 女子9名

引率教員: 2名

日程:9月17日(火)午後茅ヶ崎駅で出迎え、本校でホストファミリーと対面式

18日(水) 授業参加・4校時体育館にて歓迎会・放課後部活動(茶道部)に参加

19日(木) 授業参加・クラスでドイツ文化のプレゼンテーション

放課後部活動参加(華道部)

20日(金) 放課後に視聴覚室にて、お別れ会

21日(土) ホスト生徒と共に東京へ遠足(集合場所@茅ヶ崎駅)

22日(日) ~23日(月) 各家庭でホストファミリーと過ごす

24日(火)朝、茅ケ崎駅にて見送り



緊張の対面式



茶道部に体験入部



ドイツ文化を授業でプレゼンテーション



全校挙げての歓迎会



華道部に体験入部



お別れパーティー

ドイツ人生徒による本校訪問体験記

ニナ (Nina Luise Starzewski) さんは、2019年9月19日より10月20日まで鶴嶺高校生の家にホームステイをし1カ月にわたり鶴嶺高校の生徒として勉強し大いに活躍した。何事にも一生懸命取り組む姿は鶴校生にも大きな刺激となった。姉妹校であるザルツマンシューレから毎年、このような長期の留学生を受け入れている。

Ankunft an der Tsurumine Senior High School in Chigasaki, Japan.

Hallo alle zusammen!

Mein Name ist Nina, ich bin 16 Jahre alt und ich hatte das Glück, für einen Monat an der Tsurumine Oberschule den Unterricht besuchen zu dürfen. In Deutschland lerne ich an der Salzmannschule viele Sprachen, unter anderem Japanisch seit 5 Jahren. In meiner Zeit hier habe ich bei vier verschiedenen Gastfamilien gewohnt und auch in der Schule, vier Mal die Klasse gewechselt. Jeder einzelne Abschied viel mir schwer, doch so konnte ich viele neue Menschen kennen lernen. Letztes Jahr habe ich schon einmal aufgrund eines Austauschs diese Schule für eine Woche besucht. Es hat mir hier so gut gefallen, dass ich wiederkommen wollte! An der Tsurumine Oberschule gefällt mir besonders die lockere und freundliche Atmosphäre und vor allem natürlich meine Mitschüler. Ich empfand es als überraschend toll, wie sich fast jeder Schüler aktiv in außerschulischen Aktivitäten beteiligt. In Deutschland spielen Arbeitsgemeinschaften keine große Rolle. Doch in Japan sind diese Gruppen wie eine zweite Familie. Das hat mir sehr gefallen und ich wünschte, dass es an meiner Schule auch so wäre! Ich liebe euch alle sehr und ich wäre gerne noch länger bei euch geblieben! Wieso muss denn die Entfernung zwischen Deutschland und Japan nur so groß sein... Ich hoffe euch alle in der Zukunft wieder zu sehen. Bis dahin, vergesst mich bitte nicht, denn ich werde euch sicher nicht vergessen! Vielen Dank, für einen Monat voll Freude und Spaß, den ich von nun an zu meiner teuersten Erinnerung zählen werde. Wenn ihr an zukünftigen Reisen nach Deutschland beziehungsweise zu meiner Schule teilnehmt, möchte ich euch unbedingt treffen! Ich habe euch alle sehr lieb.

Nina

みなさんこんにちは!私の名前はニナです。16さいです。

鶴嶺高校で4週間べんきょうができてとても楽しかったです!

私はドイツのがっこうでおおくのげんごをまなんでいます。

日本ごは5年間べんきょうしています。

鶴嶺高校では、ホストファミリーとクラスが毎週かわりました。

わかれるときはかなしかったですが、そのためにたくさんのひとびととしりあうことができました。

私はすでに、去年、1週間、こうかんりゅうがくのいっかんとして鶴嶺高校にいきました。

とてもすてきだったのでもどってきました!

この学校のきにいってるところは、フレンドリーなふんいきと、クラスメートです。

鶴嶺のせいとはぶかつにさんかしているのがすばらしいと思いました。

日本ではぶかつのともだちはかぞくのようなものです!私はそれがとてもすきなので、私の学校でもさまざまなぶかつをしたいとおもいます。

鶴嶺のせいとみんながだいすき!もっとながくここにいたかったのに!なぜドイツと日本がこんなにとおくなく てはいけないの…

しょうらいまたみんなにあいたい!

私もみんなをわすれないので、私のこともわすれないでください!

1 かげつのあいだ、私のいちばんたいせつなおもいでである、しあわせとよろこびをくれてありがとうございました!

しょうらい、ドイツかザルツマンシューレにりょこうにきたらあいたいです!

またあいましょう!

ニナより

(原文のままで掲載しています。)



【訪問の記録】

第8回ドイツ訪問 ザルツマン・シューレ 2019年8月16~26日

生徒12名、引率教員2名で訪問した。

2019年8月16日(金)羽田空港を出発し、同日夕方にミュンヘン到着。ホテルに宿泊した。

8月17日(土)ノイシュヴァンシュタイン城、ヴィース教会を見学した。





8月18日(日)ミュンヘン市内を公共交通機関で見学した。





その後、飛行機でライプツィヒまで行き、そこからバスでザルツマンシューレに行った。 ホストの生徒と保護者の方がバス駐車場まで来て待っていてくれた。

8月19日(月)~22日(木)ザルツマンシューレの生徒と授業に参加したり、ディスカッションをしたり、エアフルトに遠足(タウンラリー)に出かけたりした。





タウンラリーではバディと共に行動し、市内各地を巡った。





休み時間や放課後には卓球などで積極的に交流した。





8月21日(水)ホストファミリーと共に夕食のバーベキューをした後「日本の夕べ」を開催した。





日本の百円均一ショップ、サブカルチャー、料理、書道について紹介し、みそ汁とお茶を配ったり 書道でホストファミリーの名前を書くなどのパフォーマンスも行った。





8月22日(木)校内の博物館を見学した。その後、授業に参加し、ドイツの生徒から日本語でインタビューを受けました。英語、日本語を混ぜて積極的にコミュニケーションを図った。





授業後はホームステイ先へ移動し、ホストファミリーと共に過ごした。

8月23日(金)~24日(土)ホストファミリーと共に週末を過ごした。史跡を見学したり、買い物やアクティビティに連れて行ってもらうなど充実した時間を過ごした。

8月25日(日)ホストファミリーやザルツマンシューレと別れを惜しみながら学校を出発し、ライプツィヒへ向かった。市内見学・昼食の後ライプツィヒ空港からミュンヘン空港へ移動し、ミュンヘン空港から日本へ戻る飛行機に乗り込んだ。





【事前学習の発表】

ドイツの歴史 40 期生 小山田夏芽

375年西ゴート族(ゲルマン人の一派)の大移動によって現在のヨーロッパに定着する。



481年-843年:ファンク王国

ルクセンブルク・スイス・オーストリア及びス 西ヨーロッパを支配したゲルマン系の王国。 ンス・イタリア北部・ドイツ西部・オランダ

東フランク王国 (現在のドイツにあたる)・西 タリアにあたる)が成立。東フランク王国は神 国(現在のフランスにあたる)・ 中 アラン (王

843年-962年:康フルンク王國

つ 国 (962年-1806年) を経てドイツへとしなが

現在のドイツ、オーストリア、チェコ、イタリア北部を中心に存在していた国家。

11 世紀まで-ローマ帝国 (帝国)

962年-1806年:神器ローン帝国

1939 年-1945 年「第二於谢晔大熙」

営との間で戦われた全世界的大規模の巨大戦争。ヨーロッパにおける第二次世界大戦が終結する ドイツ軍によるポーランド侵攻と続くソ連軍による侵攻、仏英による対独宣戦布告とともにヨー ロッパ戦争として始まり、その後の日本と米英との開戦によって始まった、枢軸国陣営と連合国陣 1945 年ベルリンはソ連軍によって占領され、ベルリンの戦いは終結。5月8日、ドイツ軍は正式に 連合国に対して無条件降伏し、ナチス・ドイツは消滅した。

1945年-1989年:分類57%

ルターの膜容状(カトリック教会が販売した罪の償いを軽減する証明書)批判がきっかけと

1512年-ドイツ国民の神聖ローマ帝国

1517年「宗教改革」

13 世紀-神聖ローマ帝国 12世紀-神聖帝国

望落したキリスト穀会に対する革新運動に発展し、プロテスタントがカトリック製会から分割

第2段階: デンマーク・ニーゲーザクセン戦争 (1625年-1629年)

第1段階:ボヘミア・プファルツ戦争 (1618年-1623年)

1618年-1648年「三十年戦争」



敗戦後のドイツはアメリカ合衆 国・イギリス・フランス・ソビエト連 由主義・資本主義のドイツ連邦共和 にはベルリンの壁が建設され、ベル 占領地区に共産主義のドイツ民主共 和国 (東ドイツ) が成立し、1961年 料の4ヶ国によって分割占領された。 1949 年ドイツは米英仏占領地域に自 国 (西ドイツ)、10月7日には、ソ連

1989 年にベルリンの壁が崩壊。1990 年 10 月 3 日には東ドイツが自 壊し、東ドイツ地域の諸州がドイツ連邦共和国 (西ドイツ) に編入され

国がセルビアを支援したため、ドイツ国はロシア帝国に対して宣戦した。その後、フランス、イギリ ス、日本なども参戦し、第一次世界大戦へと拡大し。1918年、コンピエーニュの体戦条約により、 第一次世界大戦は休戦した。

1933年-1945年:ナチス・ドイツ

を獲得した。アドルフ・ヒトラー及び国家社会主義ドイツ労働者党支配 1933 年1月、アドルフ・ヒトラー(右写真)は首相に任命され、政権 下の漁裁政治、ナチスは社会のほぼ全ての側面において国家社会主義が 強制される全体主義国家をつくった。

ドイツ下で行なわれた。信じられないことに、ユダヤ人を法律の保護 から外すという特別立法も可決され、最終的には600万人のユダヤ人 かの有名なユダヤ人に対する差別、迫害、虐殺もこの時代、ナチス が殺害されたといわれている。



リンは冷戦時代の象徴となった。

M

パにおける覇権を確立しようとするハブスブルク家と、それを阻止しようとする勢力間の国

プロイセンを中心に歴史上はじめて統一されドイツ帝国となった。

871年-1918年:ドイツ帝国

として展開することになった。

第一次世界大戦の敗戦で共和制に移行する。

1914年-1918年「第一次世界大戦」

プロテスタントとカトリックとの間で展開された宗教戦争と捉えられることが多いが、

第4段階:フランス・スウェーデン戦争 (1635年-1648年)

第3段階:スウェーデン戦争 (1630年-1635年)

る形で再結一が達成され、現在のドイツにいたる。 1914 年、サラエボ事件を機にオーストリア=ハンガリー帝国がセルビアに宣戦した際、

【現地校での日本文化のプレゼンテーション】

タイトル: 浄瑠璃 発表者: 41 期生 岡本華菜子

We will talk about a very traditional doll drama, NIN-GYO-JO-RU-RI.

First, we talk about what JO-RU-RI is like. Second, we will talk about dolls used in JO-RU-RI. Third, we will talk about various people acting the play. Last, we will show you some part of JO-RU-RI with a video.

What is JO-RU-RI like? I don't think you have ever heard of JO-RU-RI. JO-RU-RI is a kind of doll drama or tragedy with music in Japan.

JO-RU-RI dolls have faces which can suddenly change completely, for example, from a young lady to a demon.

JO-RU-RI dolls are puppeteered by masters and their men, who are called KU-RO-KO which means a man in black.

JO-RU-RI is accompanied by songs and the SHA-MI-SEN, a Japanese traditional guitar. JO-RU-RI dolls are narrated by its voice actors who liven up the story.

Next, we will talk in detail about dolls used in JO-RU-RI. The heads of the dolls are made of Japanese cypress or paulownia. They hollow wood out and insert devices inside of it. There are four levers attached to the stick of the head. When we pull the levers down, the facial expressions suddenly change. For the dolls' hair, human hair is used. Yak's, or Tibetan cow's tail hair is used in order to make the doll's hair thicker.









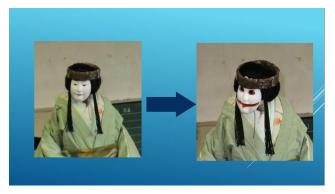
The sizes of dolls are quite different between a man and a woman. Dolls have their shoulder pads made of Japanese cypress. The shoulder pads have strings attached to arms and legs. If we put arms, legs and kimonos on them, we make dolls. However, women's dolls don't have legs because people thought it was bad-mannered for women to show their legs when they walked. In fact, you find their knees when you see the picture, because a puppeteer makes a clenched fist and makes a knee so that their movement look natural.

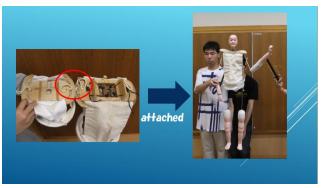
We call a narrator and voice actor 'TA-YU' in Japanese. Only one TA-YU usually plays the role of all the characters and narration. We call a puppet master 'NIN-GYO-DZU-KAI' in Japanese. In the past, only one puppet master puppeteered a doll, but now three masters puppeteer a doll. They are called O-MO-DZU-KAI, HI-DA-RI-DZU-KAI, and A-SHI-DZU-KAI. O-MO means 'main.' DZU-KAI means manipulation. So, 'O-MO-DZU-KAI' moves the doll face and the right side of a doll body. HI-DA-RI means 'left.' So, 'HI-DA-RI-DZU-KAI' move the left side of a doll body. A-SHI means 'legs.' 'A-SHI-DZU-KAI' move the bottom of a doll body. A-SHI-DZU-KAI is a difficult job because of their tough postures.

The puppet master usually wears a black cloth called 'KU-RO-KO.'

Last, we will show you some part of JO-RU-RI, a doll drama on a video.

Thank you very much for listening and watching.









G. ニュージーランドの学校への訪問 【訪問の記録】

2011年8月~現在

英国チャタム・グラマースクールの担当者の退職に伴い、同校訪問の継続が難しくなったため、**2011** 年より新たにニュージーランドのオークランド近郊の学校を訪問することとなり、**20~24** 名で訪問している。

第6回ニュージーランド訪問 アルフリストン・カレッジ 2018年8月16日~8月25日

月日 (曜)	現地時間・交通機関	スケジュール
平成30年	16:00 成田空港集合	集合場所:成田空港
8月16日 (木)	18:30 成田発 (NZ90便)	搭乗・出国審査・出発(機中泊)
8月17日(金)	8:05 オークランド着	入国手続き後、市内観光(ミッションベイ、デボン
	9:30 空港発	ポート等) 昼食後、交流校へ移動。ホストファミリ
	専用バスで移動	ーと対面後各家庭へ。 生徒ホームステイ泊
8月18日 (土)	オークランド	交流校訪問・授業参加
	アルフリストン・カレッジ	生徒ホームステイ・引率教員ホテル泊
8月19日(日)	オークランド	交流校訪問・授業参加
	アルフリストン・カレッジ	生徒ホームステイ・引率教員ホテル泊
8月20日 (月)	オークランド	交流校訪問・授業参加
	アルフリストン・カレッジ	生徒ホームステイ・引率教員ホテル泊
8月21日 (火)	オークランド	交流校訪問・授業参加
	アルフリストン・カレッジ	生徒ホームステイ・引率教員ホテル泊
8月22日 (水)	オークランド	交流校訪問・授業参加・日本文化紹介
	アルフリストン・カレッジ	生徒ホームステイ・引率教員ホテル泊
8月23日 (木)	オークランド	交流校訪問・授業参加・日本文化紹介・お別れ会
	アルフリストン・カレッジ	生徒ホームステイ・引率教員ホテル泊
8月24日(金)	午前 オークランド	交流校訪問・授業参加
	専用バスで、交流校を出発	交流校に集合し、ホストファミリーと別れを告げ、
		オークランド市内ホテルへ移動。ホテルに荷物を
	午後 オークランド・シティ	預け市内班別自主研修。市内レストランにて夕食
	市内ホテル着	後ホテルへ。 生徒・教員オークランド市内泊
8月25日 (土)	5:30 ホテル発	早朝ホテルをチェックアウトし、オークランド空
	専用バスで移動	港へ移動(朝食はボックス型)。空路、帰国の途
	8:55 オークランド発(NZ99便)	へ(11時間)
	16:50 成田空港着	入国手続き後、解散

この年は、学校訪問 5 日間、ホームステイ 1 週間のプログラムを、ニュージーランド北部オークランドにて行った。生徒 20 人、引率教員 2 名で訪問した。

16・17 日 (木曜・金曜日) 成田空港を出発し、11 時間後にオークランド空港に到着した。専用バスで市内観光をした後、アルフリストン・カレッジに移動し、ホストファミリーとの対面式が行われた。



デボンポート、ビクトリア山頂上にて



ホストファミリーとの対面

18・19日(土曜・日曜日)各自終日ホストファミリーと過ごした。









20日 (月曜日) スクールバディと対面し、マオリ族伝統の歓迎の儀式を受けた。 午後は、マオリ族の民用舞踊「ハカ」(Haka)の「カ・マテ」(Ka Mate)を習った。





現地生徒との記念写真



マオリの挨拶



カ・マテの練習風景









21日 (火曜日) 午前中は授業で、昼食後、ピザを焼いた。

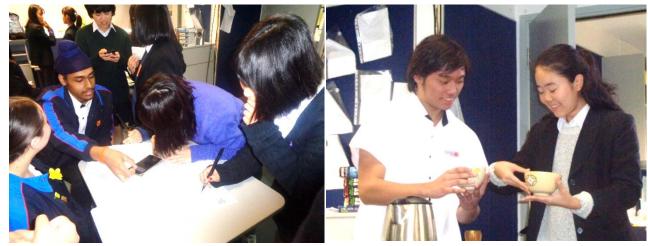




英語の授業風景

完成したピザのお披露目

22日 (水曜日) アルフリストン・カレッジの 12・13 年生の日本語のクラスにて、日本文化紹介を行った。 午後は体育館で、現地生徒と汗を流した。



日本文化紹介①





運動風景

23日(木曜日)アルフリストン・カレッジの9年生の日本語のクラスにて、日本文化紹介を行った。午後は、ホールにて、さよならパーティを催した。





日本文化紹介②



現地生徒による踊りの披露



一緒に盆踊り

24日(金曜日)訪問最終日。朝9時に学校でホストファミリーと別れ、最後の授業を受けた後、バスでオークランド中心市街地に移動した。



ホストファミリーと



現地生徒との別れ

25日(土曜日)朝の6時にホテルからオークランド空港へと出発。11時間のフライト後、帰路成田空港へ。おつかれさまでした。

【事前学習の発表】

A. ニュージーランドの歴史 43 期生 永田 宙

ニュージーランドは元々無人島で最初に定住したのが東ポリネシア系のマオリ人であった。彼らは巨大な鳥「モア」の狩猟を生業としていた。しかし、元々無人島だったニュージーランドの土地に合わせ進化したため、飛ぶ能力を失っていた。そのためすぐに狩りつくされたため、ライフスタイルが大きく変わった。その後、オランダのアベル・タスマンによって発見され、イギリスのジェームズ・クックが初めてヨーロッパ人としてニュージーランドに上陸を果たした。これを機にクジラやアザラシの捕獲を行う人々の補給地として利用されるようになった。

1830年代後半に入るとイギリスの植民会社であるニュージーランド会社が組織的な植民活動を開始したことによって入植者が増加していった。そしてマオリ人代表者と条約を締結した。しかし、条約を英語からマオリ語に翻訳した際に、マオリ語で「主権」を表す言葉が存在しなかったために、マオリ語の造語である「カワナタンガ:支配」を表す言葉に翻訳された。マオリ側の認識では「全ての土地は自分たちのもの」という認識だったが、イギリス側は「ニュージーランドは自分たちの植民地」という認識だった。こうした認識の違いから、マオリ戦争が勃発した。

戦争終了後、イギリスが大規模なインフラの整備を行い、大きな経済発展を遂げた。1880 年代には経済的な不況を経験しつつ政治家たちを中心としながら法整備、議会整備が実施され、政党の結成が図られた。1893 年~1906 年には多くの制度が導入・立法されたため、ニュージーランドは「社会立法の実験室」として世界に知られるようになった。

第一次世界大戦ではオーストラリアとの連合軍 ANZAC を組織し、多くの犠牲者を出しつつもその地位を向上させ、戦後には国際連盟に原加盟国として参加した。

第二次世界大戦では連合国の一員だったが、直接的な交戦はほとんど無く終戦を迎える。戦後は経済的発展・国際地位向上を見せるが、オイルショックやイギリスの欧州諸共同体加盟により経済不況に陥ることとなった。これを受けて労働党政権が誕生し、経済改革、社会改革といった大々的な改革が進められた。そして、ニュージーランドはイギリスに支配されつつも、自分たちの文化を守ってきた国である。

B. ニュージーランドの地理 44 期生 旭 竜

≪ニュージーランドの基礎データ≫

面積:27万534㎞ 国技:ラグビー

人口:約476万人 日本との時差:+3時間

首都:ウェリントン 先住民族:マオリ(全人口の15%を占める)

気候:西岸海洋性気候 主な宗教:キリスト教

通貨:ニュージーランドドル 位置:オセアニアのポリネシアに分布

≪ニュージーランドと羊≫

ニュージーランドでは羊が有名。それはもう有名で、国土の半分は牧羊地になっていたり、人口よりも羊の数が多いほどである。また世界的にも大規模な牧畜国家と言え、ニュージーランドの家畜(羊・豚・牛)の一人当たりの頭数は22頭と、イギリスの2頭やアルゼンチンの5頭などに比べても多いと言える。コリデール種と呼ばれる羊がニュージーランド原産地の羊で、この種は毛肉兼用。

≪地熱発電と温泉≫

ニュージーランドは日本と同じような火山国なので、地熱発電が盛んなところもあります。また、火山 国の特権と言っても過言ではない「温泉」もあります。日本と違った雰囲気を楽しめるかもしれません。

≪世界遺産≫

トンガリロ国立公園

テ・ワヒポウナム (4つの国立公園の総称)

≪ニュージーランドの魅力≫

- ・火山国で温泉がある
- 四季がはっきりしている
- ・「地球の箱庭」と呼ばれるほどの大自然がある
- ・南半球にあるから、日本の猛暑から抜け出せる!!

≪マオリ≫

ホンギと呼ばれる伝統的な挨拶がある。 やり方は握手をしながら、鼻と鼻を合わせる。

≪ニュージーランドの固有種≫

- ・キーウィ:飛べない鳥。果物のキウイフルーツ は、この鳥が由来。
- カカポ:夜行性のオウム。世界で唯一飛べない オウム。



C. ニュージーランドの文化・生活 43 期生 矢澤珠里

ONZ はかつてイギリスの植民地だった

植民地時代の名残が人々の生活習慣に見られ、「南半球のイギリス」、「イギリスよりもイギリスらしい」と表現される。国民性は素朴で誠実かつ親しみやすいと言われている。英語はイギリスよりの英語。

O禁煙事情 公共施設

娯楽施設での喫煙が禁止されている。喫煙可能な場所は、喫煙者用ホテルルームか屋外。

O飲酒事情

公共の場所での飲酒は禁止されている。18歳未満の人はお酒を購入できない。

0トイレ事情

トイレを使用していない時はドアを開けておくのが普通。ドアが閉まった状態は使用中の意味であるから。トイレのドアに鍵の必要性がないので、付いていない時もある。

O食文化

かつては、イギリス系民族の食文化が主体となったものに限られていた。1960年代あたりから外国の食文化に触れることが多くなり様々な民族の伝統もくわわって NZ 独自の食文化が発達してきた。

NZ といえば羊が多いので、ラム肉が有名。 Oスポーツ

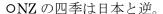
盛んなスポーツといえば、ラグビー。 愛称は「オールブラックス」で、試合前 に行う「ハカ」はマオリ民族の民族舞踊 で19世紀初頭に作られた。本来はマオリ 族の戦士が戦いの前に相手を威嚇する舞踊 である。

O民族の服装

先住民族といえばマオリ族。民族衣装は、 色鮮やかな布に刺繍がしてあり、腰には アシのような草の葉を乾燥させて、赤や 黒でストライプに染色した白い腰蓑みた いな飾りを巻いている。

ONZ と日本の似ている点

- ・両国とも島国であること
- ・両国とも四季があること
- ・両国とも日本と同様に太平洋プレートの 境目に位置するから、地震がよく起き、 温泉があるけど、入浴時は水着着用



O音率

現代では、ランキングを見ると、NZの歌だけでなく、洋楽もランクインしている。アリアナ・グランデ、エド・シーランなど…





【現地校での日本文化紹介】

A. タイトル: 茶道 発表: 43 期生 水澤花菜・末次由依

Hello, everyone. My name is Kana. My name is Yui. We are from Tsuruine High School in Japan. Today we will talk about Japanese Tea Ceremony.

The Tea Ceremony is one part Japanese culture that lasts over 800 years and it's completed by a person named Senno Rikyu.

By the way, do you know Japanese sweets? We have four different seasons in Japan; spring, summer, autumn and winter. The designs of Japanese sweets are inspired by the seasons and each season has its own sweets.

I have some quiz for you. Look at this picture. Which season is this sweet inspired by; 1. spring, 2. summer, 3. autumn or 4. winter?

If you think this is inspired by spring, would you please raise your hands?

If you think this is inspired by summer, would you please raise your hands?

If you think this is inspired by autumn, would you please raise your hands?

If you think this is inspired by winter, would you please raise your hands?

The correct answer is ··· #2 Summer!

Japanese sweets have two rules. First, we will enjoy drinking delicious tea with it. Second, it will entertain us by the appearance and taste of the sweets. If you have a chance, please try it!

Well, we'll show you how to make 'MATCHA' or green tea. MATCHA is used Tea Ceremony.

First, she is cleaning the tools to use from now; powdered thin tea and tea scoop. Next, she is pouring hot water and cleaning the tea whisk. The water is not too hot. Now, we are ready to make 'MACCHA.' She is putting the powered MATCHA into a tea bowl and pouring hot water. She is making tea.…Does anyone want to enjoy a cup of this green tea?

She is cleaning the tea bowl. And then, she is cleaning the tea whisk and the tea scoop. She is returning them to the first position. Then, 'BON-RYAKU' is finished. This is all of our presentation. Did you enjoy our presentation? Thank you very much for seeing and listening.



B. タイトル: 剣道 発表: 42 期生 河西陸人・名取咲紀・永田宙

Hello, everyone. I am Rikuto. Today we will talk about Kendo, or Japanese fencing. Kendo is a Japanese traditional martial art with other martial arts such as judo and kyudo. Also, kendo is a sport that can be enjoyed by people of a wide range of age groups. Kendo uses a bamboo sword to fight one-on-one with the opponent. Next, I will introduce the items of kendo. When you play

What is this?

#1
To protect your head?

#2

Glasses for Kendo?

#3

Head prison?



kendo, you wear Dogi and Hakama. In addition, you wear armor. From now on, I'll introduce armor. Please look at the screen. Now I have some quizzes for you. What is this? #1 Something protects your head? #2 Glasses for Kendo? #3 Head prison? If you think answer #1, please raise your hand. If you think answer #3, please raise your hand... The answer is #1. This is on your head to protect your head. It is called "Men". Next, this is called "Kote," which protects your arms. And this covers from my chest to my stomach. It is called "Dou". Next is the introduction of "Kata." "Kata" was made from a long history of kendo. We will show you "kata" now. Please enjoy.

It is possible to train "shin-gi-tai" through Kendo.

"Shin" means "fighting spirit and the spirit of self-denial".

"Gi" means "swordsmanship and insight".

"Tai" means "the physical surface".

Also, it is possible to learn proper etiquette.

Martial art [is] to be mind and body refinement, and is aimed at character building.

"Kendo" is one of them.





C. タイトル: 私の町、中井町 発表: 43 期生 関野真菜

I'm going to talk about my town Nakai. Nakai has a population of 9,500 people. The area of this town is about 500 square kilometers. There are only two elementary schools and one junior high school. There are no senior high schools. My town's economy is primarily agriculture with dairy farming and mandarin oranges. By the way, I heard the kiwi bird is a bird symbolizing New Zealand. Look at this picture. Have you ever seen this bird? The name of this bird is called Egret. It is my town's bird. Look at this picture. Do you know this flower? It is fragrant olive. It is my town's flower. It gives a nice smell.

Next I'll talk about the festivals of my town. There is a large marsh park in my town. In May, in this park, we hold the event which is called "Taketoro". It means bamboo lantern night festival. Taketoro uses a lot of bamboo trees and candles in the marsh park.

First, Nakai town officers cut down many bamboo trees. Bamboo trees grow quickly so they should be cut down every year. They put candles into bamboo lanterns and set them in the marsh park. It is very beautiful so not only local people come, but also foreign people come to this festival too. In December, at the same park, we hold an illumination festival. It uses about 3000 lanterns which are made of used plastic bottles and illuminations. A lot of local people bring their old Christmas illuminations and many kinds of Christmas decorations there and decorate them together at this festival. The plastic bottles are painted by elementary school students and local people. In fact, when I was an elementary school student, I painted the plastic lanterns and set them with my classmates. I was very tired but I enjoyed this activity very much.

In my town, there is a lot of beautiful nature and a lot of kind people, so I love my town Nakai very much. Thank you for listening and watching my presentation.









D. タイトル: 桜 発表: 43 期生 水澤花菜

I will talk about Japanese cherry blossoms. By the way have you ever seen cherry blossoms? There are many kind of Cherry blossoms and it can be seen everywhere in Japan from February to March. Japanese people loves cherry blossoms, it is all over the news when cherry blossoms bloom. Well, how do you enjoy cherry blossoms? Usually, when the cherry blossoms are in full bloom, we will gather at a cherry blossom park and have lunch. However, there are other ways to enjoy cherry blossoms. Now I introduce about Sakura cha. Sakura-cha means Cherry blossom tea. How do you make Sakura-cha? We need Cherry blossoms petal with salt and hot water. First, I will put the salted cherry blossom in the cup and second pouring hot water. I will wait about five minutes because it is very salty, so we need to drop salt. After 5 minutes, we change a cup and pouring hot water. Sakura cha is complete. The taste is thin, maybe a bit salty. Please enjoy looking and smelling. If you go to japan in April, please enjoy to see cherry blossoms. Thank you for listening

【訪問記】

43 期生 蘇子悦



I went to New Zealand from August 16th to the 25th. New Zealand is three hours ahead of Japan. That is something extremely rare. So I was very excited. I made friends at school. In lunch time, We had lunch and played the "animal game" together. They are all just nice and interesting people. We had a very fun time. My host family was very kind to me. They made some traditional New Zealand food for me. That was very delicious. I was able to have a

wonderful time thanks to them. I am fortunate to have met such nice people. I'll never forget these precious memories made with friends and my host family.

43 期生 下田萌亜菜



I felt excited and uneasy before going to NZ. However, I didn't worry much about my English. One of the reasons is that New Zealanders are very friendly and kind to me. The best of my memories is about school life. I thought classes in NZ are quite different from ours. At dance class, students were very unique and free! I remember their faces at that time. I was so happy at this class!!! I want to study abroad in the future through this experience. I envy my friends in

NZ because they study their favorite subjects with smile. I'm going to study English hard. I will do my best!!!

Ⅴ. 本校から海外への留学

毎年、数名の生徒が様々な斡旋団体を通してアメリカ、イギリス、イタリア、韓国、カナダといった様々な国の高校へ1年間の留学を果たし、その単位を生かして進級・卒業してゆく。成果は様々だが、誰もが異文化の中でことばの習得から始まり、そこでの風習に馴染み、ホームステイ先での交流を中心とした異文化コミュニケーションを体験し、一回り大きくなって戻ってくる。

留学で学んだ大切なこと

44 期 神谷凜

こんにちは、神谷凜です。

私は2年生の終わりから3年生の11月までの9ヶ月間ニュージーランドの高校へ留学しました。日本とニュージーランドでの高校生活は自分が考えていた以上に辛いことも楽しいこともたくさんあった9ヶ月間でした。

毎日の生活が新しいこととの出会いの連続でそれは本当に多くの事を学ぶ事ができ、自分自身を大きく成長させてくれました。私はもともと英語が 1 番苦手な教科でした。しかし私が将来なりたい夢をかなえる過程で様々な言語を習得することは必要不可欠でした。その第一歩が英語への苦手を克服することでした。そして克服には直接現地へ行き生きた英語に触れることでした。実際現地に行ってからはコミュニケーションもうまく取れず悩むことも多かったですが、少しずつ成長し周りの人に支えられながら生活を送る事ができ、充実した留学生活になりました。実を言うと最初のホームステイ先ではうまくいかず家を変えたこともありました。変えるときにはマザーと喧嘩もしましたが自分の意見を伝えることの大切さも知りました。なぜなら自分の気持ちを伝えたことにより良い方向へと私の留学生活が変化していったからです。

自分の気持ちを伝えることも英語も苦手だった私がここまで成長できたのはたくさんの人との出会いでした。私は人との出会いが無ければ成長の機会もないのではないかと考えています。何かを努力し成し遂げるのは自分自身ですが、何かを見つける過程で刺激を受けるのは人との関わりから生まれるものだと思います。

留学というとなにか大きなことで、英語を学ぶ事が大きな意味のように感じるかもしれません。しかし実際はそうではなく、興味と世界へと踏み出す少しの勇気さえあれば何事もうまくいくと思います。私はこの 9 ヶ月間の経験を大切にして自分の夢を叶えたいと思います。

Hi I'm Rin Kamiya.

I studied abroad at a high school in New Zealand for nine months from the end of my sophomore year to November of my junior year. My high school life in Japan and New Zealand was a lot more difficult and fun than I thought it would be.

I was able to learn a lot of new things and grow a lot in my life. English has always been my weakest subject. However, it was essential for me to learn various languages in the process of fulfilling my dream. The first step was to overcome my weakness for English, and the best way to do that was to go directly to the location and experience real English. Once I got there, I had a lot of trouble communicating, but I was able to grow little by little and live my life with the support of the people around me, and it was a fulfilling study abroad experience. To tell the truth, I had a hard time getting along with my first homestay family and had to change houses. When I changed houses, I had a fight

with ex my mother. But I could learn the importance of expressing my opinions, because by expressing my feelings, my life as an international student changed for the better.

I was not good at communicating my feelings and English, but I was able to grow so much because of the many people I met. I believe that without encounters with people, there would be no opportunities for growth. It is up to me to make the effort and accomplish something, but I believe that it is the relationships with people that inspire me in the process of finding something.

When you think of studying abroad, you may feel that it is something big, and that learning English is the big thing. However, in reality, it is not. I believe that with interest and a little courage to step out into the world, anything is possible. I'll cherish the experience of these nine months and make my dreams come true.

イタリア留学を終えて

43 期生 牧野省吾

Ciao a tutti!! Mi chiamo Shogo Makino

Ho fatto un'esperienza felicità 9 mesi in Italia. Avitavo ad Arese vicino a Milano, stavo frequendo il liceo Falcone Borsalino. Li è una piccola città però ci sono tanti genti gentilissimi, ho divento una persona famosissima subito!!

In Italia ci sono i tanti fascini. Specialitamente,la cucina italiana e la gente italiana sono bennisimi. Il primo ,ho mangiato tantissimo e cucinato. Per esempio,Pizza,Pasta,Lasagna

Rizo, Cottoretta, Prosciuto e Gelato...... Velamente ero felicissimo !!!! E i mio nonno era un cuoco bravo ,quindi abbiamo cucinato insieme e ho imparato qualche cose dal lui.

La seconda ,ho sentito che tutti italiani siano allegri e parlare tanto! Così è la cultura italiana. La distanza del cuore è diversa tra il Giappone e l'Italia. Questa cosa è molto interessante! Perché gli italiani diventano membri della famiglia dopo aver parlato Che bello!!

Studiare all'estero può trovare molti fascini e differenze persone di quel paese!

皆さんこんにちは、牧野省吾です。私はイタリアで9ヶ月間幸せな体験をしてきました。私はミラノ郊外の アレーゼという場所に住んでいて、ファルコーネ、ボルサリーノという高校に通っていました。私の町は小さ

かったのですが、住んでいる人みんな優しく、すぐに町の人気者 になれました!

イタリアにはたくさんの魅力がありますが、特に私が勧めたい のは、イタリア料理とイタリア人です。まずイタリア料理は、向 こうではたくさん食べて、いくつかつくりました。例えば、ピッ ツァ、パスタ、ラザニア、コットレッタ、プロシュートそして、 ジェラートと向こうでは最高に幸せでした。また私のホストグラ ンドファザーが料理人だったため、一緒に料理を作らしてもらっ たり、習いました、そして今帰ってきて作ったりしています。

次に、イタリア人はとっても暖かく、おしゃべりな人ばかりで す。とても近く、私はこの距離感がとても素敵だと思いました。イタリア人は一度おしゃべりしてしまえば、 家族のように親しくなれる人達です!



フィンランド留学を終えて(フィン語と英語の併記)

42 期 相川紗弥香

Fin) Moi! Minä olen Sayaka.

Opin Suomessa vuosittain.

Tiedätko missä suomi on ? Suomi on pohjois Euroopasta. Se on tosi kylmä maan talven aikana. Alin lämpötila on Helsinki -20. (Helsinki on pääkaupunki)

" Suomea" puhutaan suomen kielellä mutta kaikki voivat puhua englantia hyvin Joten olin yllätys sitten en puhuu suomea koska kaikki voivat puhua englantia hyvin ...

No niin, suomi on kuuluisa suuresta koulutukseltaan. He käyttävät tietokonetta paljon luokassaan, heillä ei ole koulusääntöjä, ja myös lukukausimaksu ja lounasmaksu ovat ilmaisia jne ...Löysin Japanin huvin puolen ja myös japanin huono puoli. Esimerkiksi Japanin hyvä puoli on japanilainen linja-autonkulkija niin kohtelias. He ajaa varovasti. Suomen hyvä puoli on se, että he eivät välitä muiden ihmisten ulkonäköä ja kunnioittavat vapautta. Ja molempien maiden hyvät puolet ovat ihmiset niin ystävällisiä ja kohteliaita. Joten olen oppinut Paljon asioita siellä. Minulle tosi hyvä aikaan tuossa.

Eng) Hello! I'm Sayaka.

I studied in Finland as an exchange student. Do you know where Finland is? Finland is north of Europe. It's so cold country during the winter. The lowest temperature is -20 degree in Helsinki. (Helsinki is capital city of Finland) "Finnish" is the first language in Finland but most of the people can speak English well. So that is the reason why I can't speak Finnish well ... Anyway Finland is famous for its great education. They use computer a lot during the class, they don't have school rules, and also the tuition and lunch fee is free etc... I noticed many good side of Japan and also bad side of Japan. For example good side of Japan is Japanese bus driver is so polite. They drive carefully. The good side of Finland is they don't care the appearance of

the other people and respect freedom. And the good sides of both country is people are so kind and polite. I've learned a lot of things there and also had very good time there.



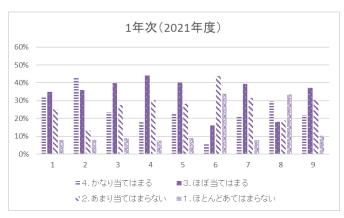
Lapland (North of Finland. Temperature is -30 degrees)



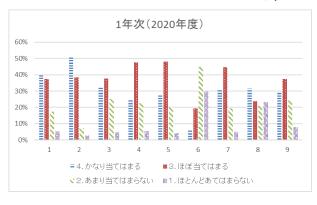
令和3年度 グローバル教育に関するアンケート結果

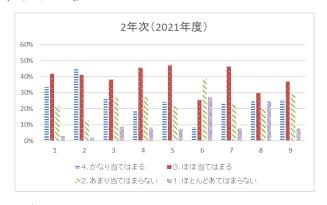
番号	質問項目	
1	外国語に対する興味・関心はありますか?	
2	今後、外国語によるコミュニーケーション力を伸ばしていきたいですか?	
3	鶴嶺高校の国際交流の行事(海外交流校訪問, 留学生来校など)について、興味・関心はありますか?	
4	日本の文化、歴史、社会等について、興味・関心はありますか?	
5	日本の文化、歴史、社会等について、何か1つでも日本語で説明できますか?	
6	日本の文化、歴史、社会等について、何か1つでも外国語で説明できますか?	
7	外国の文化、歴史、社会等について、興味・関心はありますか?	
8	学校以外(国内)で外国人と交流をしたことがありますか?	
9	日本に在住する外国人と交流したり、国際交流活動をしたいと思いますか?	

47期

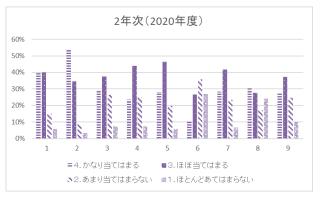


46 期 昨年度比較





45 期 昨年度比較





【分析】

- 1) 6「日本の文化、歴史、社会等について外国語で説明できるか」と8「学校以外で外国人と交流を したことがあるか」を除く全ての質問の回答が3〈かなり当てはまる〉4〈ほぼ当てはまる〉合わ せ、ほぼ6割を超えていることから、鶴嶺高校の生徒の「グローバル教育」に対する興味・関心が 高いことが分かる。
- 2) 6「日本の文化、歴史、社会等について外国語で説明できるか」について、1年生は1 〈あまり当てはまらない〉 2 〈ほとんどあてはまらない〉 合わせて 78% と、苦手意識が高いが、高 2 は 66%、高 3 は 55% と、学年を追うごとに苦手意識が低下していることが分かる。
- 3) 1「外国語に対する興味・関心があるか」について、1年生は3 〈かなり当てはまる〉 4 〈ほぼ当てはまる〉合わせて67%と他学年に比べやや低いが、2年生は75%、3年生は82%と、学年を追うごとに「興味・関心」が高まっている。
 - 2)・3)の結果は、本校で様々な観点からグローバル教育に取り組んだ成果と考えられる。
- 4) 8「学校以外(国内)で外国人と交流したことがあるか」について、3学年を通して1〈あまり当てはまらない〉2〈ほとんどあてはまらない〉合わせて5割前後と否定的な意見が多いのは、依然として続くコロナ禍の影響が大きいと考えられる。

【 今後の課題 】

新型コロナウィルス感染症の影響が依然として大きいが、今後は国内外問わず、国際交流事業に関する情報提供を増やし、1年生からより多くの生徒が国際交流活動に参加できるよう、計画的な指導をしていく必要があると考える。また、外国語教育の充実とともに「自国の文化を知らぬ、語れぬ」ことのないよう、教科を超えた教育も不可欠である。更に、新カリキュラムでは「グローバルスタディーズ」の授業で、「グローバル教育」を扱うことになるので、これらの学びを通し、より多くの生徒が自己の成長につなげられるよう、「グローバル教育」に取り組んでいきたい。